

科目名： 日本国憲法

担当教員： 井口 秀作(IGUCHI Shusaku)

【授業の紹介】

憲法という特殊な法の存在意義を確認したうえで、具体的な事例と関連づけながら、日本国憲法の基本的な構造について解説を行う。個人の尊厳を中核とする立憲主義がいかなるものであり、それが日本国憲法上でどのように具体化され、現実の社会でいかなる機能を果たしているかを確認していく。

また、上記の述べた講義内容を理解することで、学位授与の方針に関する知識、技法、態度の修得をする。

【到達目標】

この授業によって

1. 「憲法」「立憲主義」という概念について理解し説明することができるようになる。
2. 国会、内閣、裁判所の権限や相互関係を憲法の条文に則して説明することができるようになる。
3. 人権にかかわる事例について、判例や学説を踏まえて、自分の見解を述べるようになる。

【授業計画】

- | | | |
|------|---------------|-------|
| 第1回 | 憲法の存在意義 | |
| 第2回 | 憲法と法律の区別 | |
| 第3回 | 国民主権と政治制度 | |
| 第4回 | 法律の執行と行政権 | |
| 第5回 | 裁判所と司法権 | |
| 第6回 | 憲法改正と法律の改正 | |
| 第7回 | 基本的人権の意味 | |
| 第8回 | 精神的自由権(1) | 内心の自由 |
| 第9回 | 精神的自由権(2) | 表現の自由 |
| 第10回 | 経済的自由権 | |
| 第11回 | 人身の自由 | |
| 第12回 | 社会権 | |
| 第13回 | 法の下での平等と幸福追求権 | |
| 第14回 | 平和主義 | |
| 第15回 | 個人の尊厳と立憲主義 | |

【授業時間外の学習】

新聞等で憲法にかかわる諸問題が扱われるときがある。日頃から、新聞などに目を通して、興味があることには主体的に調べてみるとよい。

【成績の評価】

授業中に行う、小テストの合計で成績判定を行う。小テスト終了後、その都度解説資料を配付する。

【使用テキスト】

なし。必要な資料は適宜配布する。

【参考文献】

なし。

科目名： 情報基礎演習【発】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2013）の機能について学習し、さらに後半（情報と社会）で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、後半部も含めて毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2013を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。

【授業計画】

第1回	受講ガイダンス、	Windowsの基本操作と日本語入力
第2回	文書作成（1）	基本操作と印刷
第3回	文書作成（2）	表の作成
第4回	文書作成（3）	書式の設定
第5回	文書作成（4）	図・画像などの挿入
第6回	文書作成（5）	アウトラインの設定
第7回	文書作成（6）	Webブラウザとの連携
第8回	文書作成（7）	図の作成と編集
第9回	文書作成（8）	縦書き、PDF変換、パスワード保護
第10回	情報と社会（1）	電子メールによるコミュニケーション
第11回	情報と社会（2）	個人情報保護
第12回	情報と社会（3）	情報倫理・情報モラル
第13回	情報と社会（4）	知的財産権
第14回	情報と社会（5）	ネット犯罪
第15回	情報と社会（6）	未来の情報化社会

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。
第15回目の授業の後に最終課題を課す予定です。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、第15回の授業の後に定期試験相当として最終課題を課します。

【成績の評価】

成績は毎回の課題（80%）と最終課題（20%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』（実教出版，2013年）ISBN:9784407332537
テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

田中亘，できるシリーズ編集部著『できるWord 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333487
購入義務はありません。

科目名： 情報応用演習【発】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2013）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2013）の機能について学習します。また、前期に学習したワープロ（Microsoft Word 2013）を含めて、ソフトウェア間のデータ関係についても学習します。

【到達目標】

1. Microsoft Excel 2013を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft Excel PowerPointを対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。

【授業計画】

第1回	受講ガイダンス、表計算（1）	基本操作と印刷
第2回	表計算（2）	表の作成と基本編集
第3回	表計算（3）	表の書式設定と印刷（詳細）
第4回	表計算（4）	数式（1） 絶対参照と相対参照、基本関数
第5回	表計算（5）	数式（2） 順位取得、条件判断
第6回	表計算（6）	数式（3） 表参照によるデータ取得、端数処理
第7回	表計算（7）	数式（4） エラー回避、文字列操作
第8回	表計算（8）	グラフと図形
第9回	表計算（9）	データベース機能
第10回	プレゼンテーション（1）	基本操作と印刷
第11回	プレゼンテーション（2）	図やオブジェクトの挿入
第12回	プレゼンテーション（3）	図の作成と編集
第13回	プレゼンテーション（4）	SmartArt、グラフ、表の挿入
第14回	プレゼンテーション（5）	特殊効果と自動実行
第15回	プレゼンテーション（6）	ソフトウェア間のデータ関係

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。
第15回目の授業の後に最終課題を課す予定です。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。

【成績の評価】

成績は毎回の課題（80%）と最終課題（20%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』（実教出版，2013年）ISBN:9784407332537

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

小館由典，できるシリーズ編集部著『できるExcel 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333494

井上香緒里，できるシリーズ編集部著『できるPowerPoint 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333593

購入義務はありません。

科目名： 健康とスポーツ

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi)

【授業の紹介】

スポーツを行う本来の目的は、スポーツそのものを楽しむ、つまり、心身の開放にあります。他方、スポーツは身体活動を伴うものであり、例えば、スポーツ活動によって体力の向上や現代社会で問題になっている過栄養と運動不足が原因で生じるメタボリックシンドロームの予防策として活用することもできます。本授業ではスポーツ生理学の視点からスポーツ活動が体力の向上や健康の維持増進に及ぼす効果と合理的な運動実施法（運動処方）について学習し、生涯にわたり自律的に健康管理ができる実践力を身に付けます。

【到達目標】

1. スポーツ生理学によりスポーツ活動が身体機能に及ぼす効果について科学的理解を深めることをめざします。
2. 修得したスポーツ生理学の知識を活かし自己の体力や健康の維持増進のための運動実践が自律的に実行できるようにします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツと健康
- 第3回 スポーツと体力
- 第4回 エアロビクス運動とは
- 第5回 エアロビクス運動の方法
- 第6回 メタボリックシンドロームとは
- 第7回 メタボリックシンドロームの予防法
- 第8回 肥満と運動療法
- 第9回 運動と三大栄養素
- 第10回 運動とビタミン
- 第11回 運動とミネラル
- 第12回 運動と疲労
- 第13回 運動と睡眠
- 第14回 運動と加齢
- 第15回 まとめ（健康づくりに関する質疑応答）

【授業時間外の学習】

事前に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、スポーツ生理学の知識を活用し栄養や運動処方についてのレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60%）、レポート（30%）、学習態度（10%）によって行い、総計60%以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中西光雄著『運動生理学入門』（技術書院、1993年）
上野俊文監修『ウォーキングの基本』（JTBパブリッシング、2007年）

科目名： 健康とスポーツ実習【発】
担当教員： 山下 博武(YAMASHITA Hiromu)

【授業の紹介】

本授業では、みなさんが生涯各ライフステージにおいてQOLを豊かにし、楽しむことのできるスポーツを実践します。具体的には、ネット型スポーツ、ゴール型スポーツの2分野を実施し、各競技の基本的技術や戦術を身につけるとともに、仲間と協力し自ら進んで行動する力を養うことを目的とします。ただし、季節や天候によって実施種目が前後することがあります。

【到達目標】

1. スポーツを通し、自立的に自己の体力向上や健康の維持と増進ができるようさまざまな運動の行い方を習得し、生涯スポーツの実践力を身につける。
2. スポーツを楽しむ上で、社会人として生涯スポーツに臨む態度を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツの歴史とスポーツ文化
- 第3回～第6回 ネット型スポーツ（バドミントン・卓球・バドミントンなど）
- 第7回～第10回 ゴール型スポーツ（バスケットボール・サッカー・フットサルなど）
- 第11回～第14回 ネット型スポーツ（バドミントン・卓球・バドミントンなど）
- 第15回 上記実技種目の総まとめ（上記実技種目の戦術およびルール、技術の復習）

【授業時間外の学習】

スポーツ中継や新聞、雑誌等を見てスポーツに対して興味・関心を持ち、ルールを覚える。ウェブを参照して当該種目の技術や面白さを味わえるようにすること。

【成績の評価】

実技テスト、授業態度等を総合的に評価し、60点以上を合格とする

【使用テキスト】

使用しません

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス、1982年）

科目名： 英語 【発】

担当教員： 篠原 範子(SHINOHARA Noriko)

【授業の紹介】

基礎的な英文法力の定着ならびに語彙力の強化を図るとともに、英文読解力および聴解力の強化に努めます。

また、英語というツールを身につけることを通して、豊かな心と想像力を身につけることを目指します。受講生は家庭での継続的学習が求められます。また、毎時間必ず辞書を持参してください。

【到達目標】

- ・基礎的な英文法を理解することができる。
- ・使用頻度の高い語彙を身につけ、活用することができる。
- ・日常的な英文の読解ができる。易しめの英文について、日本語と英語の発音の違いに注意しながら自信をもって音読ができる。
- ・やや長めの英文を聞いて概要をつかむことができる。
- ・英語 の学習を通して、実用英語技能検定準2級（または3級）に合格することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、現在形（Be動詞）（1）

第2回 現在形（Be動詞）（2）

第3回 現在形（一般動詞）（1）

第4回 現在形（一般動詞）（2）

第5回 現在進行形（1）

第6回 現在進行形（2）

第7回 現在形と現在進行形（1）

第8回 現在形と現在進行形（2）

第9回 過去形（1）

第10回 過去形（2）

第11回 過去進行形（1）

第12回 過去進行形（2）

第13回 現在完了（1）

第14回 現在完了（2）

第15回 前期ユニットの振り返り

併行して、英文読解演習と英文聴解演習を行います。

【授業時間外の学習】

教科書の指定範囲の予習・復習を行う。自分にあった英語ノートを上手に作り上げてください。適宜、英文音読演習やレポート提出等を求めることがあります。

【成績の評価】

- ・授業時間外の課題・・・30%
- ・授業への取り組み・・・30%
- ・各種小テスト・・・40%

小テスト、その他の様々な課題、試験等については、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

市川泰弘・Anthony Allan著（2016年）『Tune into Grammar（耳から学ぶ大学英文法の基礎）』金星堂、2,100円＋税
（後期の「英語」でもこれを継続使用します。）

【参考文献】

- ・高校のときに使用した英文法参考書があれば講義の時に持ってきてください。
- ・その他、必要に応じて授業時に、英語、文化、学習に関する文献を紹介します。
- ・外国語を学ぶ者の心得の一つであり基本的マナーの一つでもあります。授業には必ず、辞書（電子辞書も可）を持参してください。

科目名： 英語 【発】

担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

本授業では、中・高校で習った基礎的な文法力の定着を図るとともに、卒業後の社会において求められる英語でのコミュニケーション力の強化のために必要となる聴解力と読解力の強化に努めます。家庭では予習と復習が求められ、その確認のため毎回授業のはじめに小テストを行います。

【到達目標】

バランスの取れた英語力の習得のためには、当然のことながら文法・語法の理解は不可欠です。この授業で目指すものは、以下の三つです。基礎的な文法を確実に理解できるようになる。まとまった長さの英文を読んだり、聞いたりして理解できる。そして 実用英語技能検定試験3級に合格することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・英語の品詞について
- 第2回 be動詞・現在・過去
- 第3回 一般動詞・現在
- 第4回 一般動詞・過去
- 第5回 多様な疑問文
- 第6回 未来形
- 第7回 進行形
- 第8回 助動詞(1)
- 第9回 助動詞(2)
- 第10回 接続詞
- 第11回 受動態(1)
- 第12回 受動態(2)
- 第13回 特殊な文
- 第14回 比較(1)
- 第15回 比較(2)

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。

毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること、提出物の準備をすること、次回の授業の予習をすること、などです。

【成績の評価】

小テスト(20%)、宿題(30%)および 定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

大坂四郎著、First Steps to English Grammar (南雲堂)

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： 英語 【発】

担当教員： 篠原 範子(SHINOHARA Noriko)

【授業の紹介】

前期「英語」に引き続き本講義では、文法基礎の定着とリスニング力・語彙力強化を図り、実用英語技能検定準2級～3級の合格を目指します。実際の過去問題を用いて、問題の形式や頻出熟語・表現・パターンに慣れるための演習を織り交ぜます。さらに、語彙力の強化に向けて新出語彙・熟語の学習を着実に進めてもらいます。またリスニング対策として、聞こえてきた英文とその内容をすぐに声に出す活動を行います。

前期同様、受講生は家庭での継続的な学習が求められます。また、本講義の受講生は、1月に実施される実用英語技能検定を受検することが望まれます。

【到達目標】

- ・基礎的な英文法を理解することができる。
- ・使用頻度の高い語彙を身につけ、活用することができる。
- ・日常的な英文の読解ができる。易しめの英文について、日本語と英語の発音の違いに注意しながら自信をもって音読ができる。
- ・やや長めの英文を聞いて概要をつかむことができる。
- ・英語の学習を通して、実用英語技能検定準2級（または3級）に合格することができる。

【授業計画】

- 第1回 過去形と現在完了（1）
- 第2回 過去形と現在完了（2）
- 第3回 未来形（1）
- 第4回 未来形（2）
- 第5回 助動詞（1）
- 第6回 助動詞（2）
- 第7回 名詞と代名詞（1）
- 第8回 名詞と代名詞（2）
- 第9回 形容詞（1）
- 第10回 形容詞（2）
- 第11回 副詞（1）
- 第12回 副詞（2）
- 第13回 前置詞（1）
- 第14回 前置詞（2）
- 第15回 振り返り

期末試験

併行して、英文読解演習と英文聴解演習、および英検問題演習を行います。

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として毎時間、次の課題を課します。

毎時間、予習状況の確認を行います。少なくとも、ノートを作ってテキストに出てくる語彙の整理を行っておいてください。

教科書の指定範囲の予習・復習を行う。自分にあった英語ノートを上手に作り上げてください。

指定個所の音読練習を行う。ときどき暗唱練習を行います。次の時間に練習の成果を確認します。

適宜、英文音読演習、英検問題演習課題やレポート提出等を求めることがあります。

【成績の評価】

- ・授業時間外の課題・・・30%
- ・授業への取り組み・・・30%
- ・各種小テスト・・・30%
- ・期末テスト・・・10%

【使用テキスト】

市川泰弘・Anthony Allan著（2016年）『Tune into Grammar（耳から学ぶ大学英文法の基礎）』金星堂、2,100円＋税

（前期に使ったものをそのまま継続して使用します。）

【参考文献】

・前期からの継続学習の一つとして、高校のときに使用した英文法参考書読み返しを行ってもらいます。

第1の参考文献はその参考書です。

・その他、必要に応じて授業時に、英語、文化、学習に関する文献を紹介します。

・外国語を学ぶ者の心得の一つであり基本的マナーの一つでもありますが、授業には必ず、辞書（電子辞書も可）を持参してください。

科目名： 英語 【発】

担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

英語 に引き続き、この授業では基礎的な文法力の定着を図るとともに、身近な話題を扱いながら、英語の4技能の運用能力を高め、将来社会人として最低限必要な英語力の涵養に努めます。また、実用英語技能検定試験やTOEICの問題にあたりながら、英語による問題解決力の向上をも目指します。

【到達目標】

- ・ 基本的な英文法を理解することができる。
- ・ 平易な英文の読解ができる。
- ・ 日常的な英文を聞いて、概要をつかむことができる。
- ・ 実用英語技能検定試験準2級に合格することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・前期の復習
- 第2回 文型(1)
- 第3回 文型(2)
- 第4回 受動態
- 第5回 代名詞
- 第6回 動名詞
- 第7回 分詞
- 第8回 節
- 第9回 比較(1)
- 第10回 比較(2)
- 第11回 完了形(1)
- 第12回 完了形(2)
- 第13回 仮定法(1)
- 第14回 仮定法(2)
- 第15回 仮定法(3)

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。
毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること、提出物の準備をすること、次回の授業の予習をすること、などです。

【成績の評価】

小テスト(20%)、宿題(30%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

前期の進度により、後期に使用するテキストは、前期の最後に指示します。

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： プラクティカル・イングリッシュ 【発】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This is an introductory course in English. We will focus on listening speaking mainly, but we will also cover reading and writing. The course is a practical course, and students will be expected to use English in every class. We will follow the outline of the textbook

【到達目標】

The goal of the course is to teach the students basic communicative skills that they can use in day to day environment. The textbooks starts with introducing yourself, introducing others, and talking about different cultural aspects that are related to English. Since the instructor is a native English teachers, students will be given every opportunity to use living English

【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction
- 第2回 Unit 1 Introductions
- 第3回 Unit 1 Talking about yourself
- 第4回 Unit 1 Occupations; in class speaking quiz
- 第5回 Unit 2 Work and school
- 第6回 Unit 2 Asking information
- 第7回 Unit 2 Future plans; in class speaking quiz
- 第8回 Writing module. Students will write about a selected topic
- 第9回 Unit 3 Talking about "these" and "those"
- 第10回 Unit 3 Shopping English
- 第11回 Unit 3 Comparing items; in class speaking quiz
- 第12回 Unit 4 Talking about genres of music/movies/TV
- 第13回 Unit 4 Likes and dislikes
- 第14回 Unit 4 Inviting people do things
- 第15回 test review

【授業時間外の学習】

Students will be occasionally be given homework to prepare for the next week's lesson

【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. The remainder of the 70% will come from a comprehensive final examination.

【使用テキスト】

Interchange Fourth Edition Level 1 Student Book A
Author: Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press
2,052yen

Students will be required to get a Japanese to English dictionary.

【参考文献】

なし

科目名： プラクティカル・イングリッシュ 【発】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

The prerequisite for this course is Practical English I. Students will continue to closely follow the outline of the textbook. Emphasis will be on basic communication skills in English. The topics will be basic English conversation. Students should use English in every class.

【到達目標】

The goals of this course is to build on the skills that the students learned in Practical English I. They should become proficient in basic English communication skills, and a rudimentary understanding in grammar and vocabulary in order to accomplish that goal. Students will be able to converse with the native English instructor on common everyday topics.

【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction
- 第2回 Unit 5 Family
- 第3回 Unit 5 Relationships
- 第4回 Unit 5 Daily life; conversation quiz
- 第5回 Unit 6 Exercising
- 第6回 Unit 6 Doing things
- 第7回 Unit 6 How much, How often, How well; conversation quiz
- 第8回 Mid-term review (第1回～第7回までの復習)
- 第9回 Unit 7 Free time
- 第10回 Unit 7 At home
- 第11回 Unit 7 Sightseeing; conversation quiz
- 第12回 Unit 8 Talking about your neighborhood
- 第13回 Unit 8 The basic names of shops and offices
- 第14回 Unit 8 Describing an locale; conversation quiz
- 第15回 test review

【授業時間外の学習】

Students will occasionally be required to do homework in order to prepare for the next lesson.

【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. 70% will come from a comprehensive final examination.

【使用テキスト】

Interchange Fourth Edition Level 1 Student Book A
Author: Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press
2,052 yen

Students will be asked to bring a Japanese to English dictionary to class

【参考文献】

なし

科目名： フランス語

担当教員： 岡部 ベアトリス(OKABE Beatrice)

【授業の紹介】

<英語 外国語>確かに英語が話せると便利だと思いますが、ドイツ語や中国語、フランス語もまた世界への窓を開くと思いませんか？新しく素晴らしい発見が多くできるように授業を進めていきたいと考えています。ネイティブのフランス語教師のもとでその都度、理解度を確かめながら丁寧に無理なく、「使える」フランス語をABCから勉強していきます。基礎的な発音や短い構文からまずフランス語に親しみ、慣れてきたら単語や文法を学びながら実用的な表現や会話文を身につけます。初級的な教材（ビデオ教材を含む）を用いて、主に口頭練習を行います。

高松大学経営学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力を養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「見る・聞く・書く・話す」の総合的なフランス語能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 授業紹介(講義中での教室内のルール・決まり事など)、アルファベット
- 第2回 フランス語の発音に親しむ、挨拶の仕方を覚える
- 第3回 国籍を言う・第1課の本文を理解する・主語人称代名詞
- 第4回 第1課の本文を暗記する・動詞être (...である)の変化
- 第5回 第一群規則動詞の変化・ロールプレイを用いて口頭練習
- 第6回 名前や職業を言う・第2課の本文を理解する
- 第7回 第2課の本文を暗記する・形容詞の性・数の一致
- 第8回 フランス語の発音と綴り字の読み方・練習問題
- 第9回 持ち物を尋ねる・第3課の本文を理解する・男性名詞、女性名詞、不定冠詞
- 第10回 第3課の本文を暗記する・動詞avoir (...を持っている)の変化
- 第11回 趣味を語る・第4課の本文を理解する・定冠詞
- 第12回 第4課の本文を暗記する・疑問文の作り方、疑問詞
- 第13回 ビデオ教材を用いて、フランス文化に親しむ(パリの歴史的建造物の紹介)・練習問題
- 第14回 口頭試験に向けてのまとめ(様々な質問に答えを作文 口頭練習)
- 第15回 記述試験に向けてのまとめ・総合練習問題

【授業時間外の学習】

教科書にはCDがついているので、会話文や練習問題を繰り返し聞きなど、復習すること。毎授業ごとに復習の範囲を指示して、次の授業で口頭または小テストにより、確認する。

【成績の評価】

授業中、積極的に参加しているかどうか、書き込み式教科書・ノートやプリントに丁寧に書いているか、評価します。

学期末口頭試験	20%
学期末記述試験	60%

総合合格点は60点以上です。

【使用テキスト】

藤田祐二『Pascal au Japon (パスカル オ ジャパン)』(白水社)

【参考文献】

特になし

科目名： フランス語

担当教員： 岡部 ベアトリス(OKABE Beatrice)

【授業の紹介】

フランス語で身につけた知識をベースに、コミュニケーションの場で使える「生」のフランス語の習得を目指します。初回から積極的に授業に参加し、学習に取り組まれることを期待しています。既習事項を確かめながら、暗記や応用練習を通じて最小限の構文・文法の法則を理解する中で、少しずつ自分についての表現もできるようになります。「体験の場」という意識のもとで授業に臨んでほしいです。

高松大学経営学部の「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力を養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「見る・聞く・書く・話す」の総合的なフランス語能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 フランス語の復習、ロールプレイを用いて口頭練習
- 第2回 第5課の本文を理解する・<誰ですか>を尋ねる・非人称構文：il y a ... (...がある)
- 第3回 第5課の本文を暗記する・否定文の作り方
- 第4回 疑問代名詞qui(誰)、練習問題
- 第5回 第6課の本文を理解する・<したいこと>を尋ねる・前置詞と定冠詞の縮約
- 第6回 指示形容詞・否定疑問文の応答、練習問題
- 第7回 第6課の本文を暗記する・動詞vouloirとpouvoir(したい、できる)の変化
- 第8回 第7課の本文を理解する・<住んでいる場所>を言う・人称代名詞の強勢形
- 第9回 第7課の本文を暗記する・所有形容詞
- 第10回 第8課の本文を理解する・<何をしているか>を尋ねる・動詞faire(~をする)の変化
- 第11回 第8課の本文を暗記する・疑問代名詞que(何)
- 第12回 場所を表す前置詞、フランスの習慣に親しむ(パリの公園など)(ビデオ教材)、練習問題
- 第13回 第9課の本文を理解する・<家族を語る>・否定文における冠詞の変形
- 第14回 口頭試験に向けてのまとめ(様々な質問に答えを作文 口頭練習)
- 第15回 記述試験に向けてのまとめ・総合練習問題

【授業時間外の学習】

教科書にはCDがついているので、会話文や練習問題を繰り返し聞きなど、復習すること。毎授業ごとに復習の範囲を指示して、次の授業で口頭または小テストにより、確認する。

【成績の評価】

授業中、積極的に参加しているかどうか、書き込み式教科書・ノートやプリントに丁寧に書いているか、評価します。

学期末口頭試験	20%
学期末記述試験	60%

総合合格点は60点以上です。

【使用テキスト】

藤田祐二『Pascal au Japon (パスカル オ ジャポン)』(白水社)

【参考文献】

特になし

科目名： 中国語

担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業では、中国語を話すや読むための発音記号（ピンイン）や中国語の基本文型を学習し、そのうえ、漢字を読み、単語を覚え、簡単な会話や挨拶を練習していきます。発音の練習は通信媒体の機能を利用して楽しく学習していきます。また、中国社会や中国文化についても紹介し、グローバルな思考を養います。

【到達目標】

- 1．中国語の発音記号（ピンイン）を学習することによって中国語の漢字をすべて読むことができます。
- 2．中国語での挨拶や簡単な会話ができるようになります。
- 3．中国語基本文型の構造が理解できます。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと単母音
- 第2回 子音 b p m f、d t n l と複合母音
- 第3回 子音 g k h、j q x と複合母音
- 第4回 子音、鼻音
- 第5回 ピンインの小テスト
- 第6回 名前の言い方
- 第7回 簡単な挨拶
- 第8回 「是」の使い方
- 第9回 形容詞述語文
- 第10回 中間テスト
- 第11回 「的」の使い方・指示代名詞
- 第12回 動詞述語
- 第13回 疑問文のタイプ
- 第14回 数字の言い方
- 第15回 お金の言い方

【授業時間外の学習】

授業内容の復習と中国文化や習慣などについて調べたりします。

【成績の評価】

会話文作成（25%）、小テスト（25%）、期末テスト（50%）
会話文作成や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 『新版1年生のコミュニケーション中国語』（白水社、2014年）

【参考文献】

『中日・日中辞典』

科目名： 中国語

担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業は、中国語を学習した学生を対象にさらに語彙を増やし、基本文型を学習し、それを使って会話をしたり、中国語の文章を読んだり、書いたりします。

【到達目標】

- 1 簡単な会話ができるようになります。
- 2 簡単な中国語を読める・書けるようになります。

【授業計画】

- 第1回 前置詞「在」、
- 第2回 存在する動詞「有」
- 第3回 時間量詞の学習
- 第4回 存在の表現
- 第5回 過去形
- 第6回 選択疑問文
- 第7回 中間テスト
- 第8回 現在進行形
- 第9回 「会」、「能」の使い方
- 第10回 助動詞「可以」
- 第11回 動詞の重ね型
- 第12回 「是・・・的」の使い方
- 第13回 過去の経験を現す「过」
- 第14回 連動型
- 第15回 復習

【授業時間外の学習】

授業内容の復習

【成績の評価】

作文(25%)、小テスト(25%)、期末テスト(50%)
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 『新版1年生のコミュニケーション中国語』 (白水社、2014年)

【参考文献】

『中日・日中辞典』

科目名： 国語（書写を含む）
担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

- 学生が自ら主体的に取り組む多様な授業形態の中で、様々な教材を読解、鑑賞し、小学校や幼稚園などで直接に子どもの言語教育にあたるための理論や実践力、創造力を培う。
- 書写については、基本的な漢字の読み方・書き方・表記などについて練習する。

【到達目標】

- 学生が自ら主体的に取り組む、小学校国語教育に携わる教員として必要な「国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てる」力を養う。
- 学生が、基本的な漢字の読み方・書き方・表記を身につける。

【授業計画】

- 第1回 学習指導要領と「国語」の意義について
- 第2回 「やまなし」読解
- 第3回 「やまなし」読解
- 第4回 「やまなし」読解
- 第5回 「ジーンズ」読解
- 第6回 「ジーンズ」読解
- 第7回 様々な表現技術
- 第8回 様々な表現技術
- 第9回 古典読解
- 第10回 古典読解
- 第11回 アクティブラーニング練習
- 第12回 アクティブラーニング練習
- 第13回 「なめとこ山の熊」読解
- 第14回 「なめとこ山の熊」読解
- 第15回 これまでの読解・表現・書写についての整理

【授業時間外の学習】

- 毎時、次時授業の予習を課す。

【成績の評価】

- 予習課題の提出状況の評価する。
- 授業に対する取り組み姿勢を評価します。
- 毎時の教材の試写・感想や思索の文章化・授業記録を評価する。
- 期末考査の結果（70％）と（30％）を合わせて総合評価する。。
- 期末試験の結果については、考査終了後、正答例を研究室前に掲示する。

【使用テキスト】

- 教材として、資料プリントを準備する。
- 毎時、国語辞書を持参すること

【参考文献】

- 保育所保育指針（平成20年3月厚生労働省告示）
- 幼稚園教育要領（平成20年3月文部科学省告示）
- 小学校学習指導要領（平成20年3月文部科学省告示）
- 関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介する。

科目名： 社会

担当教員： 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro)

【授業の紹介】

小学校の社会科は、児童の社会認識を育てることによって、平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公的資質の基礎を養うことを目標とする教科である。

本授業では、前半で、小学校社会科教育に関する基本的な考え方や社会科の内容構成について述べ、後半では、具体的な授業の場面を想定しながら、学習指導・授業実践論・評価等について述べる。また、今日の変化する社会の中で、教師がどのような姿勢で、教材観を養い、教材研究を進めるべきか考えたい。その中で、将来、小学校で授業を行う際の「理論」と「実践力」を養う。

【到達目標】

小学校社会科の歴史や社会科の目標・指導内容等について理解するとともに、児童の社会認識の発達段階に応じた適切な教材選びや指導方法の選択ができるようにする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・社会科の歴史 (P.7～P.22)
- 第2回 小学校社会科の目標 (P.22～P.26)
- 第3回 小学校社会科の内容構成・社会科と道徳教育 (P.26～P.31)
- 第4回 小学校社会科の内容・地域学習と郷土学習 (P.32～P.41)
- 第5回 " ・地理的学習 (P.41～P.47)
- 第6回 " ・歴史的学習 (P.47～P.56)
- 第7回 " ・公的学習と環境・国際理解の学習 (P.57～P.75)
- 第8回 小学校社会科の学習指導論・社会科の学習過程 (P.76～P.86)
- 第9回 " ・社会科の学習活動 (P.86～P.96)
- 第10回 小学校社会科の授業実践・中学年 (P.97～P.107)
- 第11回 " ・5年 (P.108～P.116)
- 第12回 " ・6年
- 第13回 教材研究のあり方
- 第14回 教材研究のあり方
- 第15回 小学校社会科の評価はどうあるべきか (P.126～P.136)

【授業時間外の学習】

毎回授業中に質問をするので、テキスト『初等社会科教育研究』の該当ページを予習し、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。また、ユニットの区切りごとには小テストまたはレポートを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにしておくこと。本学図書館には、小学校社会科関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に利用すること。

【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、授業の中で行うリフレクションペーパーの作成や小テスト(50%)、期末試験(50%)とする。

小テスト、レポートについては、評価と解説を行い、授業の中で返却します。
試験については、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説・社会編』(東京書籍、2008年、208円)安野功著『社会科・授業力向上5つの戦略』(東洋館出版社、2006年、2,268円)『新編新しい社会』3・4年～6年の上・下(東京書籍、2009年、2,706円)。

【参考文献】

必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

科目名： 算数

担当教員： 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

あなたが考え、あなたが解決する時間です。算数教育の変遷を知り、世界や日本で大切にされてきた数の世界のすばらしさを体感します。また、生活に密着している算数から論理的思考へと広がっていく数学の世界をいろいろな領域で調べていきます。また、問題を解決していく中で、古典的課題から現代数学までの様々な発想や方法を学びます。

【到達目標】

- ・ 基本的な問題を一つひとつ解決することによって、考える過程の楽しさやその理由が理解できる。
- ・ 各自の考えた解決策を相互に検討し、自分の解答をみんなに分かるように説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 算数教育の変遷(1)
- 第2回 算数教育の変遷(2)
- 第3回 数の世界(計算の約束)
- 第4回 昔からの和算(過不足算等)
- 第5回 大小関係(そろえる)
- 第6回 図形の特徴(内角の和、外角の和)
- 第7回 図形の特徴(ピタゴラスの定理)
- 第8回 図形の特徴(等積変形)
- 第9回 集合(仲間分け)
- 第10回 数量関係(比例・反比例)
- 第11回 資料の平均
- 第12回 単位と測定
- 第13回 場合の数
- 第14回 統計
- 第15回 全国学力・学習状況調査

【授業時間外の学習】

積み重ねのために毎回の復習が必要です。演習プリントを課題として渡しますので、定着を図ってほしい。

【成績の評価】

授業中の活動(10%)、演習(10%)、レポート(10%)、期末試験(70%)により評価します。

【使用テキスト】

必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

なし

科目名： 理科

担当教員： 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro)

【授業の紹介】

子どもたちの理科離れ、自然離れが指摘されています。本来、子どもは好奇心が強く、自然のいろいろな事物・現象に興味津々です。子どもたちが不思議に思う気持ちを大切に受け止め、驚きや感動を共有して、いっしょに調べ、考えていこうとする教師の姿勢が大切です。

また、今日の社会が目ざす方向を示す標語として、「持続可能な社会」という言葉が使われます。先人が築きあげ、大切に受け継いできた文化や自然が急速に失われつつあることへの警鐘です。

これらを考え合わせ、授業では、小学校理科で学習する内容の中から生物教材を中心に、観察、実験、栽培、飼育などの体験的な方法や技能を鍛えながら、自然認識の形成と自然環境の保全について考え、学んでいきます。将来、小学校で授業を行う際の「理論」と「実践力」を養います。

【到達目標】

- (1)子どもたちの学びの場となる自然および自然の事物・現象についての基本的な知識を身につけることができる。
- (2)子どもに自然のすばらしさ、巧みさ、不思議さを気づかせる指導技術を養うことをめざす。
- (3)正しい自然認識を形成し、「持続可能な社会」の実現に向けた指導について、考えることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校理科の目標と生物教材の取り扱い
- 第3回 環境教育の考え方
- 第4回 環境教育の実践・ビオトープ
- 第5回 春の自然観察・春日川と野鳥
- 第6回 春の自然観察・学内の生き物
- 第7回 栽培の方法
- 第8回 飼育の方法
- 第9回 観察と記録の方法
- 第10回 観察と記録の演習
- 第11回 動物の誕生・メダカ
- 第12回 花から実へ・植物の成長
- 第13回 教材研究と授業計画
- 第14回 指導案作成
- 第15回 模擬授業

【授業時間外の学習】

- ・『小学校指導要領解説 理科編』と配付資料を読んで授業に臨むこと。
- ・ワークシートを完成させて、提出すること。
- ・飼育、栽培している動植物の世話と観察を継続的に行うこと。

【成績の評価】

レポート、模擬授業など授業の成果と筆記試験をそれぞれ50%で評価する。
小テスト、レポートについては、評価と解説を行い、授業の中で返却します。
試験については、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

文部科学省編 『小学校学習指導要領解説 理科編』（大日本図書、2008年）65円
文部科学省 『小学校理科の観察、実験の手引き』（文部科学省ホームページからダウンロード）

【参考文献】

日本自然保護協会 / 編集・監修 『自然観察ハンドブック』（平凡社、1994年）2160円

科目名： 生活

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji)

【授業の紹介】

生活科は、平成元年度の学習指導要領改訂により、小学校低学年に創設・導入された教科です。小学校に入学した児童の学習がその発達段階に即したものとなるよう社会科と理科の内容を中心に統合し、より体験重視の学習が展開されるようになり、低学年児童が最も好きな教科の一つに挙げられるようになりました。

教科書に取り上げられている動植物の飼育・栽培する実体験、物作りや地域のフィールドワーク等にも挑戦しながら、教材性を明らかにしていきます。

【到達目標】

生活科創設の歴史的背景を探ることを通して、生活科本来の目的を把握にするとともに、低学年教育全体の改善のみならず、小学校教育の在り方を見直す契機になってきた点を理解します。そして、教科書の内容をもとに価値ある体験活動を構想し、児童主体の生活科についての「理論」と「実践力」を高めます。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活科の創設と歴史的背景
- 第3回 生活科の役割と特色
- 第4回 生活科の目標と内容
- 第5回 1年生の内容と体験活動
- 第6回 自然との関わり
- 第7回 体験活動と表現
- 第8回 2年生の内容と体験活動
- 第9回 地域のフィールドワーク
- 第10回 物作りと科学的な見方・考え方
- 第11回 安全教育との関わり
- 第12回 身近な人々との関わり
- 第13回 合科的指導
- 第14回 幼児教育との連携（スタートカリキュラムの作成）
- 第15回 小学校教育における生活科の役割

【授業時間外の学習】

生活科では、学習の場を児童の生活圏である学校、家庭及び近隣地域に求め、学習の素材は、自分と社会や自然との関わりが具体的に把握できるものとするところから、日常生活の中で、自然認識や社会認識への気づきに関わる教材発見に努め、教材ノートを作成していきます。取材・採集の課題は、授業最後に提示します。

【成績の評価】

小テスト(60%)やレポート、授業への参加態度(20%)、日常活動(20%)等をもとに評価します。小テスト、レポートについては、その都度、結果を授業時に説明、講評してフィードバックを行う。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説生活編』（日本文教出版、2008年）101円

【参考文献】

随時紹介または資料配布します。

科目名： 音楽 -

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae),水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu),酒井 信(SAKAI Makoto),出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri),徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya),西村 京子(NISHIMURA Kyoko),日野 朝代(HINO Tomoyo),渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で音楽が果たす役割は大変大きく、保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は不可欠です。この授業では、個人の能力に応じて教則本を選定し、初心者についてはバイエル60番を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指す一方、基本的な音符や音楽用語を学びます。また他学生の演奏等を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものとしします。

【到達目標】

このシラバスはピアノ演奏初心者のものであり、既習者については各自の演奏経験をもとに担当教員の指導を受ける。バイエル60番を人前で自信を持って演奏することを目標にしている。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテ-ション
- 第2回 音符の読み方、片手ずつの簡単な旋律の練習
- 第3回 楽語の説明、両手の簡単な旋律の練習
- 第4回 バイエル 10～15番の練習曲
- 第5回 バイエル 15～20番の練習曲
- 第6回 バイエル 20～25番の練習曲
- 第7回 バイエル 25～30番の練習曲
- 第8回 バイエル 30～35番の練習曲
- 第9回 バイエル 35～40番の練習曲
- 第10回 バイエル 40～45番の練習曲
- 第11回 バイエル 45～50番の練習曲
- 第12回 バイエル 50～55番の練習曲
- 第13回 バイエル 55～60番の練習曲
- 第14回 バイエル 60番
- 第15回 バイエル 60番暗譜、グループで発表演奏

【授業時間外の学習】

毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。特に初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

前期終了時に各自の課題曲を演奏し、楽曲の解釈、リズム感、旋律の美しさ等を担当教員5名が聴き完成度を評価し、単位を認定します。

当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%

【使用テキスト】

『バイエル教則本』(F.バイエル作曲)(全音楽譜出版社)

【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae),水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu),酒井 信(SAKAI Makoto),出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri),徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya),西村 京子(NISHIMURA Kyoko),日野 朝代(HINO Tomoyo),渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で音楽が果たす役割は大変大きく、保育園、幼稚園、小学校、特別支援学校において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は不可欠です。この授業では、音楽一に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、初心者についてはバイエル80番を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指す一方、基本的な音符や音楽用語を学びます。また他学生の演奏等を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものとし

【到達目標】

このシラバスはピアノ演奏初心者のものであり、既習者については各自の演奏経験をもとに担当教員の指導を受ける。バイエル60番を人前で自信を持って演奏することを目標にしている。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、前期音楽一の復習
- 第2回 音階の練習
- 第3回 バイエル 61・62番練習
- 第4回 バイエル 63・64番練習
- 第5回 バイエル 65・66番練習
- 第6回 バイエル 67・68番練習
- 第7回 バイエル 69・70番練習
- 第8回 バイエル 71・72番練習
- 第9回 バイエル 73・74番練習
- 第10回 バイエル 75・76番練習
- 第11回 バイエル 77・78番練習
- 第12回 バイエル 79・80番練習
- 第13回 バイエル 80番練習
- 第14回 バイエル 80番練習
- 第15回 バイエル 80番暗譜、グループで発表演奏

【授業時間外の学習】

毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。特に初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

後期終了時に各自の課題曲を演奏し、楽曲の解釈、リズム感、旋律の美しさ等を担当教員5名が聴き完成度を評価し、単位を認定します。

当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%

【使用テキスト】

『バイエル教則本』（F.バイエル作曲）（全音楽譜出版社）

【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -

担当教員： 三木 美子(MIKI Yoshiko), 酒井 信(SAKAI Makoto), 日野 朝代(HINO Tomoyo),
水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu) 西村 京子(NISHIMURA Kyoko), 渡辺 磨奈(WATANABE
Mana), 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で音楽が果たす役割は大変大きく、保育士、幼稚園、小学校において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は不可欠です。

この授業では、音楽 -、- に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、大学入学後ピアノを始めた学生についてはバイエル終了を目標としピアノ演奏技術の向上を目指す一方、基本的な音符、休符、記号等を学びます。また他学生の演奏等を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

将来無理なく教育現場で楽曲が弾けるように基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し楽曲を選ぶ
- 第2回 実技指導
- 第3回 実技指導
- 第4回 実技指導
- 第5回 実技指導
- 第6回 実技指導
- 第7回 実技指導
- 第8回 課題曲を中心に実技指導
- 第9回 課題曲を中心に実技指導
- 第10回 課題曲を中心に実技指導
- 第11回 課題曲を中心に実技指導
- 第12回 課題曲を中心に実技指導
- 第13回 課題曲を中心に実技指導
- 第14回 課題曲を中心に実技指導
- 第15回 各クラスにおける課題の発表演奏

【授業時間外の学習】

練習目標を設定し、必ず毎日ピアノに向い練習すること。

【成績の評価】

前期終了時に実技発表演奏を行い、担当教員5名で曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価します。

当日実技発表演奏 90% 課題への取り組み方 10%

【使用テキスト】

全音楽譜出版社出版部 『バイエル教則本』（全音楽譜出版社）972円、
シェルニー100・30番教則本、
ブルグミュラー練習曲
ソナチネアルバム第1巻、
ソナタアルバム、その他

【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -

担当教員： 三木 美子(MIKI Yoshiko), 酒井 信(SAKAI Makoto), 日野 朝代(HINO Tomoyo),
水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu) 西村 京子(NISHIMURA Kyoko), 渡辺 磨奈(WATANABE
Mana), 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で音楽が果たす役割は大変大きく、保育士、幼稚園、小学校において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は不可欠です。

この授業では、音楽 - を習得後引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルを終了した学生はツェルニー100番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進みピアノ演奏技術の向上を目指す一方、基本的な音符、休符、記号等を学びます。また「保育内容 - 表現」の授業と関連することもあり、他学生の演奏等を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

将来無理なく教育現場で楽曲が弾けるように基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し楽曲を選ぶ
- 第2回 実技指導
- 第3回 実技指導
- 第4回 実技指導
- 第5回 実技指導
- 第6回 実技指導
- 第7回 実技指導
- 第8回 課題曲を中心に実技指導
- 第9回 課題曲を中心に実技指導
- 第10回 課題曲を中心に実技指導
- 第11回 課題曲を中心に実技指導
- 第12回 課題曲を中心に実技指導
- 第13回 課題曲を中心に実技指導
- 第14回 課題曲を中心に実技指導
- 第15回 各クラスにおける課題の発表演奏

【授業時間外の学習】

練習目標を設定し、必ず毎日ピアノに向い練習すること。

【成績の評価】

後期終了時に実技発表演奏を行ない、担当教員5名で曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価します。

当日実技発表演奏 90% 課題への取り組み方 10%

【使用テキスト】

バイエル教則本、ツェルニー100・30番教則本、ブルグミュラー練習曲
ソナチネアルバム第1巻、ソナタアルバム、その他

【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -
担当教員： 福崎 至佐子(FUKUZAKI Hisako)

【授業の紹介】

この授業は3年生前期に行います。
打楽器(小太鼓・大太鼓・カスタネット・スネア・タンバリン・すず・トライアングル)・音板楽器(木琴・鉄琴)・管楽器(リコーダー)等を用いて、簡単な重奏や合奏にした楽曲・クラシックの名曲を演奏します。

【到達目標】

児童は楽器に興味を持って積極的に取り組みを見せます。その心を育て、音楽の楽しさや美しさを感じ取らせながら個々の音楽的な能力の芽をのばし、育てられるようになることを目指します。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(合奏について)
- 第2回 楽器の扱い方(手入れの仕方)
- 第3回 各楽器の基礎奏法(簡単な曲を合奏)
- 第4回 音符・休符・連符の長さ、拍子記号、音楽記号、反復記号、発想標語について
- 第5回 総譜(スコア)の読み方
- 第6回 メロディー楽器の基礎奏法
- 第7回 打楽器の基礎奏法
- 第8回～第13回 文部省唱歌・クラシックの名曲をグループ毎に演奏、それを鑑賞又はお互いに指揮をして、模擬授業を行う。
- 第14回 仕上げ
- 第15回 全員で全曲演奏する

【授業時間外の学習】

復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。1日10分でも良いので復習を心がけましょう。

【成績の評価】

平常の授業への取り組みを重視し、期末試験も含め総合的に評価します。

期末試験点	80%
平常点	20%

【使用テキスト】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

なし

科目名： 音楽 -

担当教員： 金川 公久(KANAGAWA Hirohisa)

【授業の紹介】

中学・高校の吹奏楽部などで経験したり、個人的に習った管打楽器を使用して合奏をおこないます。演奏技術に応じた教材を用意し、技術に応じた学習ができるよう、工夫した授業をおこないます。楽曲の演奏を通じ、自主性、協調性、集中力や感性を養い、将来子供たちを指導するためのポイントのつかみ方を学びます。

【到達目標】

11月に開催されるオータムコンサートを第1目標とし、また、学内外での演奏にも積極的に取り組むことにより、音楽的感性や積極性を育てます。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回	基礎合奏
第3回	基礎合奏 総合的楽曲の合奏(1)
第4回	基礎合奏 総合的楽曲の合奏(2)
第5回	基礎合奏 総合的楽曲の合奏(3)
第6回	基礎合奏 総合的楽曲の合奏(4)
第7回	基礎合奏 総合的楽曲の個々の完成度の向上(1)
第8回	基礎合奏 総合的楽曲の個々の完成度の向上(2)
第9回	基礎合奏 総合的楽曲の個々の完成度の向上(3)
第10回	基礎合奏 総合的楽曲の個々の完成度の向上(4)
第11回	基礎合奏 総合的楽曲合奏の完成度の向上(1)
第12回	基礎合奏 総合的楽曲合奏の完成度の向上(2)
第13回	基礎合奏 総合的楽曲合奏の完成度の向上(3)
第14回	基礎合奏 総合的楽曲合奏の完成度の向上(4)
第15回	合奏による発表

【授業時間外の学習】

楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。たえず楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。

【成績の評価】

平常の授業への取り組みや演奏技術をふくめて、総合的に評価します。

【使用テキスト】

全体的な演奏の技量に応じて、楽譜などを配布します。

【参考文献】

- JBCバンドスタディ(ヤマハ楽譜出版)
- 3Dハンドブック(ヤマハ楽譜出版)

科目名： 図画工作 -
担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

子どもの教育・保育にあたる人にとって造形とは、「美」にふれることを教えることである。子どもが本来持っている素直で自由な表現力を高めるためには、日々の生活の中から育まれる「美」への発見を喜びに結ばせ、楽しく自由な表現活動を行うことが重要である。素描、水彩画、平面構成、ペーパークラフトを通して、造形活動に必要な基礎的知識と技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

- 1．自然の中における色や形を考えることによって、「美」の発見と造形表現のイメージをもつことができる。
- 2．各種の造形表現によって、基礎的な造形力を身に付けることができる。
- 3．構想する力によって、創造性を養うことができる。
- 4．表現することの喜びを得ることによって、豊かな感性を磨くことを目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 鉛筆デッサン（形の把握）
- 第3回 鉛筆デッサン（光の表し方 - 陰影）
- 第4回 水彩画（モチーフの配置、下絵）
- 第5回 水彩画（下絵、彩色）
- 第6回 水彩画（彩色）
- 第7回 水彩画（彩色、仕上げ）
- 第8回 平面構成（アイデアスケッチ）
- 第9回 平面構成（レイアウト）
- 第10回 平面構成（配色）
- 第11回 平面構成（配色と調整）
- 第12回 平面構成（配色と調整、仕上げ）
- 第13回 ペーパークラフト（平行対折りなど基本の折り方）
- 第14回 ペーパークラフト（色彩表現）
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

【授業時間外の学習】

身近なモチーフを使った鉛筆デッサン。「イメージ表現」のアイデア。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80%）、授業態度・意欲・準備物（20%）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 菊地 清著 『紙ワザ工房』（日貿出版社、2007年）、1,620円
タンタン著 『切り絵工房花編』（高橋書店、2006年）、1,080円
飯島 武著 『紙でつくる動物たち』（雄鶏社、2007年）、1,404円

科目名： 図画工作 -

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

子どもの教育・保育にあたる人にとって造形とは、「美」にふれることを教えることである。子どもが本来持っている素直で自由な表現力を高めるために、日々の生活の中から育まれる「美」への発見を喜びに結ばせ、楽しく自由な表現活動を行うことが重要である。平面デザイン、立体構成、貼り絵、粘土造形を通して、造形活動に必要な基礎的知識と技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 自然の中における色や形を考えることによって、「美」の発見と造形表現のイメージをもつことができる。
2. 各種の造形表現によって、基礎的な造形力を身に付けることができる。
3. 構想する力によって、創造性を養うことができる。
4. 表現することの喜びを得ることによって豊かな感性を磨くことを目指す。

【授業計画】

- 第1回 感ずる心と創造
- 第2回 デザイン（アイデアスケッチ）
- 第3回 デザイン（レイアウト、着色）
- 第4回 デザイン（着色）
- 第5回 デザイン（着色、仕上げ）
- 第6回 ペーパークラフト（試作）
- 第7回 ペーパークラフト（カッティングと立体制作）
- 第8回 貼り絵（アイデアスケッチ、構図を考える）
- 第9回 貼り絵（配色を考える）
- 第10回 貼り絵（色の集合体を表現する）
- 第11回 貼り絵（色のバランス、調整）
- 第12回 貼り絵（色の調整と修正、仕上げ）
- 第13回 粘土造形（成形）
- 第14回 粘土造形（彩色、仕上げ）
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

【授業時間外の学習】

「デザイン」・「ペーパークラフト」の構想。「貼り絵」の資料収集。「粘土造形」の構想。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80%）、授業態度・意欲・準備物（20%）
課題についてはその都度チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

菊地 清著『紙ワザ工房』（日貿出版社、2007年）、1,620円
中山ゆかり著『ペーパークラフトどうぶつえん』（MPC、2007年）、2,160円

科目名： 図画工作 -

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形は、人間が独創的で積極的に創造活動を行うことができるものである。創作へのイメージや構想は多くの人のもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。素描、水彩画、色鉛筆画、切り絵などによって造形に必要な基礎的能力や美的感覚を養い、創作活動の枠を広げた技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 素描の仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
2. 絵画などの創造活動によって美的体験を豊かにすることができる。
3. 造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
4. 観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【授業計画】

- 第1回 表現力について
- 第2回 静物による素描（形、明暗、材質、空間の把握）
- 第3回 静物による素描（ヴァルールの表現）
- 第4回 水彩画（モチーフの配置と構図のとり方、スケッチ）
- 第5回 水彩画（彩色）
- 第6回 水彩画（彩色、仕上げ）
- 第7回 色鉛筆による描画（作品鑑賞、アイディアスケッチ）
- 第8回 色鉛筆による描画（レイアウト、配色、着色）
- 第9回 色鉛筆による描画（着色）
- 第10回 色鉛筆による描画（着色、仕上げ）
- 第11回 切り絵（ラフスケッチ、試作、下絵）
- 第12回 切り絵（細部のカッティング）
- 第13回 切り絵（細部と大きい部分のカッティング）
- 第14回 切り絵（カッティング、修正、仕上げ）
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

【授業時間外の学習】

静物のデッサン。参考作品の調査と分析。「色鉛筆画」・「切り絵」の構想。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80%）、授業態度・意欲・準備物（20%）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

永守基樹、清原知二著『幼児造形教育の基礎知識』（建帛社、1999年）、2,700円
『アートテクニック大百科』（美術出版社、1996年）、6,090円

科目名： 図画工作 -

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形は、人間が最も独創的で積極的に創造活動を行うものである。創作へのイメージや構想は多くの人がもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。絵本の制作を中心に、平面デザインや立体デザインなどによって造形に必要な基礎的能力や美的感覚を養い、創作活動の枠を広げた技能を修得し、豊かな心と創造力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 素描の仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
2. デザインなどの創造活動によって美的体験を豊かにすることができる。
3. 造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
4. 観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【授業計画】

- 第1回 保育の絵本、絵本作家の作品鑑賞
- 第2回 題材を決める。あら筋を考える。ストーリーの整理。ページ割り
- 第3回 絵本のためのイラスト（ラフスケッチ、下絵）
- 第4回 絵本のためのイラスト（着色）
- 第5回 絵本のためのイラスト（着色、仕上げ）
- 第6回 絵本のしかけ（ポップアップの試作）
- 第7回 絵本のしかけ（ポップアップの制作）
- 第8回 絵本のしかけ（ポップアップの制作、彩色）
- 第9回 レタリングの基本
- 第10回 レタリングの制作
- 第11回 デザイン（アイディアスケッチ）
- 第12回 デザイン（レイアウト、配色）
- 第13回 デザイン（着色）
- 第14回 デザイン（着色、仕上げ）
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。

【授業時間外の学習】

絵本の調査・分析。「イラスト」の構想。「しかけ」の構想。「デザイン」の構想。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80%）、授業態度・意欲・準備物（20%）
課題は中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

井上共子編著『保育の絵本研究』（三晃書房、1986年）、1,836円

科目名： 家庭

担当教員： 中村 真由美(NAKAMURA Mayumi)

【授業の紹介】

この授業ではまず、小学校の家庭科の学習内容について学びます。そして、演習や実験、実習などの実践的な活動を中心に、小学校で家庭科の授業を行うために必要な家庭科の学習内容についての知識と基礎的な技能を習得します。また、そのような実践的な活動を通して小学校家庭科の教材についての認識を深め、教材研究をする力を培います。

被服製作実習では裁縫道具及び布地などの資材、調理実習では白衣またはエプロン、三角巾、布巾などの準備が必要です。また、共通で使用するものの材料費として受講生全員から実習費を徴収します。

「家庭科指導法研究」を履修する予定の学生は、受講するようにして下さい。

【到達目標】

小学校の家庭科の学習内容を自分の言葉で説明する事ができる。

小学校の家庭科の授業を行うために必要な知識や基礎的な技能を習得する。

小学校の家庭科の教材研究ができる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（授業のねらいと進め方について）
- 第2回 「家庭生活と家族」自立について
- 第3回 「家庭生活と家族」生活リズムについて
- 第4回 「快適な衣服と住まい」エコ掃除について 指あみのエコたわしの製作
- 第5回 「快適な衣服と住まい」被服製作の基礎知識
- 第6回 「快適な衣服と住まい」手縫いの基礎とボタンつけ
- 第7回 「快適な衣服と住まい」ミシン縫いの基礎
- 第8回 「生活に役立つ物の製作」型紙の製作
- 第9回 「生活に役立つ物の製作」裁断・印つけ
- 第10回 「生活に役立つ物の製作」本縫い
- 第11回 「生活に役立つ物の製作」本縫い
- 第12回 「生活に役立つ物の製作」本縫い
- 第13回 「生活に役立つ物の製作」本縫い
- 第14回 「生活に役立つ物の製作」本縫い
- 第15回 「日常の食事と調理の基礎」毎日何を食べているか
- 第16回 「日常の食事と調理の基礎」何をどう食べるか
- 第17回 「日常の食事と調理の基礎」食材の切り方
- 第18回 「日常の食事と調理の基礎」お鍋でご飯を炊いてみよう 味噌玉作り
- 第19回、第20回 「日常の食事と調理の基礎」ご飯と味噌汁 茹でる料理
- 第21回、第22回 「日常の食事と調理の基礎」ご飯と味噌汁 炒める料理
- 第23回 「日常の食事と調理の基礎」食物アレルギー対応のお菓子 清涼飲料水を作ってみよう
- 第24回 「快適な衣服と住まい」調理室のエコ掃除
- 第25回、第26回 「日常の食事と調理の基礎」一食分の献立の立案と調理
- 第27回、第28回 「日常の食事と調理の基礎」郷土料理について
- 第29回 教材発表
- 第30回 これまでの講義の要点の確認と質疑応答

【授業時間外の学習】

授業、演習、実験及び実習形式中心に進めていきますので、予習や授業に必要なものの準備や、授業後のレポート等提出物の課題に取り組むことが必要です。家庭科の指導においては、まず教師自身が基礎的・基本的な知識と技能を習得し、生活面で自立していることが必要とされます。授業の予習、復習だけでなく、各自が日常生活を科学的な視点から改めて見つめなおし、主体的に生活することを心がけてください。

【成績の評価】

授業態度及び意欲（10%）、演習、実験、実習などの準備（10%）、提出物の提出状況や提出内容（60%）、教材作成や発表内容（20%）で評価します。

なお、提出物の提出期限後の提出及び未提出、事前連絡なしの遅刻、欠席は減点とします。

また、被服製作及び調理実習の出席は必須とし、準備なしでの実習の授業への出席は認めません。

【使用テキスト】

- ・『小学校学習指導要領解説 家庭編』、文部科学省、東洋館出版社、2008年、90円（税抜）
- ・『新編 新しい家庭5・6』、東京書籍、274円（内税）
- ・『新編 新しい家庭5・6 家庭科ノート上』、東京書籍、324円

【参考文献】

講義の中で説明します。

科目名： 体育 -

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi), 田中 美季(Tanaka Miki)

【授業の紹介】

この授業では、子どもの主体的な活動が確保されるように、子ども一人ひとりの行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成されなければならないとする保育の中で、“運動あそび”をどう指導してゆくかについて理解し、現場における位置づけを考察します。近い将来、幼児教育や保育の仕事に携わるみなさんが、子どもの運動遊びを適切に指導できるようになるためにこの授業を行います。

【到達目標】

1. 運動遊びを実施するにあたっての基礎的、理論的根拠を修得できる。
2. 子どものからだ、心の発育発達の特徴を理解し、運動の学習と指導の理論を修得できる。
3. 子どもの運動能力の開発に必要な基礎的指導技術を身につけることをめざす。
4. 子どもの発育発達の「理論」とそれを踏まえた運動指導の「実践力」を兼ね備えることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育の中での運動あそびの援助について
- 第3回 子どもの発育・発達の特徴について (歩く・走る)
- 第4回 子どもの発育・発達の特徴について (跳ぶ)
- 第5回 子どもの発育・発達の特徴について (投げる)
- 第6回 基本的運動あそび (生活の中にあるあそび)
- 第7回 基本的運動あそび (体を使ってのやりとりあそび)
- 第8回 基本的運動あそび (一人であそぶ)
- 第9回 基本的運動あそび (イメージを共有するあそび)
- 第10回 基本的運動あそび (戸外でのあそび)
- 第11回 子どもの運動能力を引き出す指導 (ボールあそび)
- 第12回 子どもの運動能力を引き出す指導 (鬼ごっこ)
- 第13回 子どもの運動能力を引き出す指導 (季節的なあそび)
- 第14回 総括 (子どもの運動あそび)
- 第15回 総括 (子どもの運動あそびとその実際)

【授業時間外の学習】

授業中にいろいろな運動遊びや、レクリエーションゲームを紹介するので、ノートに記録し、授業内容とともに復習しておいて下さい。

【成績の評価】

小テスト(技術)：40%

授業態度：40%

レポート点：10%

期末試験：10%

*全体の60%以上の得点で合格とします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

西田俊夫ほか 『幼児期の運動あそび』(不昧堂出版、1991年)2,500円

前橋 明ほか 『親と子のふれあい体操』(星雲社、1993年)1,500円

松井洋子 『からだでおはなし』(太郎次郎社、1994年)1,850円

井形高明ほか 『新・子どものスポーツ医学』(南江堂、1997年)3,200円

佐藤雅弘 『子どもの運動能力を引き出す方法』(講談社、2004年)1,600円

石井美晴ほか 『保育の中の運動あそび』(萌文書林、1994年)1,890円

科目名： 体育 -

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi), 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

この授業では、体育 に引き続き、保育理念に基づいた運動あそびの指導とは何かについて理解します。子どもの興味や能力に応じた遊びの中で、子ども自らがからだを動かす心地よさを味わうことができるようにする方法を学習します。また、単に運動あそびを行うというだけでなく、様々な活動をおして意欲的に満足する体験を積み重ねるようにするための具体的な指導方法を身につけるための授業です。

【到達目標】

1. 子どもの発育発達の基本理論をもとに、多種多様な運動の実技能力と指導力を養うことができる。
2. 子どもの興味、子どもの創意、工夫、感動の喜びを共感し合いながら、からだを十分に使って遊ぶ「運動あそび」を展開することができる。
3. 授業におけるさまざまな活動の中で、共に助け合い、豊かな心と創造力を身につける。

【授業計画】

- | | | |
|------|--------------------------------|-----------------|
| 第1回 | 子どもの発育・発達の特徴と運動あそびについて | (3歳児のあそび) |
| 第2回 | 子どもの発育・発達の特徴と運動あそびについて | (4歳児のあそび) |
| 第3回 | 子どもの発育・発達の特徴と運動あそびについて | (5歳児のあそび) |
| 第4回 | 子どもの体力・運動能力を踏まえた運動あそびの指導 | (ボールあそび) |
| 第5回 | 子どもの体力・運動能力を踏まえた運動あそびの指導 | (鬼ごっこ) |
| 第6回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(用具を使って) | (すべり台) |
| 第7回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(用具を使って) | (ブランコ) |
| 第8回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(用具を使って) | (低鉄棒) |
| 第9回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (春) |
| 第10回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (夏) |
| 第11回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (秋) |
| 第12回 | いろいろな運動あそびの実際と保育者の援助(四季の運動あそび) | (冬) |
| 第13回 | 子どもの運動指導の実際 | (指導クリニック・リハーサル) |
| 第14回 | 子どもの運動指導の実際 | (指者クリニック) |
| 第15回 | 総括(子どもの発育・発達を踏まえた運動あそびの実際) | |

【授業時間外の学習】

授業中にいろいろな運動遊びや、レクリエーションゲームを紹介するので、ノートに記録し、授業内容とともに復習しておいてください。また、子どもへの運動指導の場面を設定して実際に行うので、日頃から子どもの運動遊び関連の資料を収集しておいてください。

【成績の評価】

小テスト(技術)：40%

授業態度：40%

レポート点：10%

期末試験：10%

*全体の60%以上の得点で合格とします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

西田俊夫ほか 『幼児期の運動あそび』(不昧堂出版、1991年)2,500円

前橋 明ほか 『親と子のふれあい体操』(星雲社、1993年)1,500円

松井洋子 『からだでおはなし』(太郎次郎社、1994年)1,850円

井形高明ほか 『新・子どものスポーツ医学』(南江堂、1997年)3,200円

佐藤雅弘 『子どもの運動能力を引き出す方法』(講談社、2004年)1,600円

石井美晴ほか 『保育の中の運動あそび』(萌文書林、1994年)1,890円

科目名： 体育 -

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi)

【授業の紹介】

幼児期における身体器官の発達速度は器官によって異なります。スキヤモン (Scammon, R.E.) は身体器官の発育パターンを一般型、神経型、リンパ型、生殖型の4つのパターンに分類しています。神経型に属する脳神経系は出生直後から発育速度を急速に増し、幼児期から児童期の早期において成人の90%レベルの成熟度に達します。脳神経系の発達刺激として有効な働きをする「幼児期・児童期の運動あそび」に関する知識、技能を修得し子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けた指導者をめざします。

【到達目標】

1. 脳神経科学の知識を修得し、子どもの運動機能の発達を科学的に理解できるようにします。
2. 走・眺・投に基盤をおいた運動遊びの方法を修得し、運動あそびの指導ができることをめざします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもの「走」機能の発達
- 第3回 子どもの「跳」機能の発達
- 第4回 子どもの「投」機能の発達
- 第5回 おにごっこ
- 第6回 かけっこあそび 曲線走
- 第7回 かけっこあそび 直線走
- 第8回 かけっこあそび リレー
- 第9回 とびっこあそび 幅とび
- 第10回 とびっこあそび 高とび
- 第11回 なげっこあそび
- 第12回 運動あそびの創作活動(グループ別作品づくり)
- 第13回 運動あそびの創作活動(グループ別作品づくり)
- 第14回 運動あそびの作品発表会
- 第15回 まとめ(作品の合評会)

【授業時間外の学習】

事前に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業のまとめとして運動あそびをグループごとに創作し作品を発表します。自分たちの力で独創的な運動あそびの作品が創れるよう授業で学んだ内容の振り返りをしっかり行って下さい。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験(40%)、創作作品(40%)、授業態度(20%)によって行い、総計60%以上を合格とします。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 学校体育同志会編『乳幼児の体育あそび』(草土文化、1994年)
- 枘岡義明・西村 誠編著『保育あそびアラカルト』(朱鷺書房、2003年)
- 柴岡三千夫著『幼児体育』(タイケン出版、2009年)

科目名： 体育 -

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi)

【授業の紹介】

幼児期と児童期は脳神経が著しい発達を遂げる時期です。特に、調整力、つまり「巧みさ」を司る大脳新皮質運動野の発達が顕著です。本授業では身体機能の巧みさを育む器具・用具を使った運動あそびの知識と技能を修得し子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けた指導者をめざします。

【到達目標】

1. 脳神経科学の知識を修得し子どもの運動機能の発達を科学的に理解できるようにします。
2. 器具・用具に基盤をおいた運動あそびの方法を修得し、器具・用具を使った運動あそびの指導ができるようにします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもの脳機能の発達
- 第3回 脳機能の発達と調整力
- 第4～6回 マットを使った運動あそび
- 第7～9回 とび箱を使った運動あそび
- 第10～11回 ボールを使った運動あそび
- 第12回 運動あそびの創作活動（グループ別作品づくり）
- 第13回 運動あそびの創作活動（グループ別作品づくり）
- 第14回 運動あそびの作品発表会
- 第15回 まとめ（作品の合評会）

【授業時間外の学習】

事前に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業のまとめとして運動あそびをグループごとに創作し発表します。自分たちの力で独創的な運動あそびの作品が創れるよう授業で学んだ内容の振り返りを十分行って下さい。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（40％）、創作作品（40％）、授業態度（20％）によって行い、総計60％以上を合格とします。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 学校体育同志会編『乳幼児の体育あそび』（草土文化、1994年）
- 枘岡義明・西村 誠編著『保育あそびアラカルト』（朱鷺書房、2003年）
- 柴岡三千夫著『幼児体育』（タイケン出版、2009年）

科目名： 教師論

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育は教師次第と言われる。それほど教師の役割が重要であることを示している。他方で、誰でも親になれるとか、学生がアルバイトで家庭教師や塾の講師をすればかのように、教えるのは誰にでもできるように思われている。そうだろうか。本授業では教師には様々な役割があり、そこにはいかに人間性（例えば豊かな心）や専門性（例えば教育・保育の理論や実践力）が必要か、そして教職はどのような仕組みになっているか、などを明らかにする。

受講に当たって、自分自身が幼稚園・保育所・小学校時代の先生のこと、あるいは現在の様々な教育問題や教育実践を思い起こしながら受講するとよい。また、講義形式を主とするが、ディスカッション、調査、発表、小課題も取り入れるなどするので、受講生の積極的受講を期待する。

なお、ここで「教師」「先生」とは、上述のように幼稚園、小学校の教員と保育士の両方を含めている。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が教師・教職（保育職）を具体的に理解すること、それぞれの教師像を明確にすること、教職（保育職）に対する情熱や使命感・倫理観を高めることである。授業の具体的な到達目標は、教師の人間性、専門性、職業人としての教師について理解できること、具体例をあげて、あるいは教育実践と結びつけて、説明できることである。そして教師をめぐる諸問題について疑問を持つこと、そして教職についての知識や理解を深めることである。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	
第2回	(1) 教師の人間性	1) 歴史の中の教師
第3回		2) 現代の教師像
第4回		3) 人間として成長する教師
第5回	(2) 教師の専門性	1) 求められる専門性の変遷
第6回		2) 現代に求められる専門性
第7回		3) 専門性確立の課題
第8回	(3) 職業人としての教師	1) 職務
第9回		2) 身分
第10回		3) 服務規律
第11回		4) 勤務条件
第12回	(4) 教師の仕事	1) 学習指導, 生活指導
第13回		2) 学級(保育室)経営, 学校(園)経営
第14回	(5) 教師を育てる - 教員(保育士)養成・採用・研修 -	
第15回	(6) 教師をめぐる現代的諸問題	

【授業時間外の学習】

授業の中でしっかり取り組むことはもちろんだが、紹介された参考文献や配られた資料を事前にあるいは事後に参照する、あるいは課題や宿題を一つ一つきちんとこなすと、より理解が進むだろう。

【成績の評価】

ディスカッション、調査、発表など授業内外での活動状況(20%)、小課題(宿題含む)(30%)、期末試験(40%)、ノート・資料(10%)などを総合して評価する。比率は出来具合を見て変更することがある。

小課題及び期末試験については後日解答例を示す予定である。

【使用テキスト】

なし。適宜資料を配付する。

【参考文献】

- ・佐竹勝利他編『新世紀の教職論』（コレール社、2006年）、2,300円
- ・秋山弥監修『新版 教師の仕事とは何か』（北大路書房、2009年）、2,400円
- ・汐見稔幸他編『保育者論』（最新保育講座2）（ミネルヴァ書房、2010年）、2,200円
- ・榎沢良彦他編『保育者論』（保育・教育ネオシリーズ9）（同文書院、2015年）、2,100円
- その他

科目名： 教育学原論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育学原論は、教育職員免許法施行規則に定める教育の基礎理論（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）を学ぶ科目です。こういうとなんだか難しそうに聞こえるでしょうか？でも、家庭・学校・社会とあなたが生活をすることでどのような場でも教育はあなたに深く関わりのあるもので、とてもなじみの深いものでもありますね。この科目では、教育学を身近に感じてもらえるように教育学を概括的に学びます。この科目は、学部のポリシーに掲げる、小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための理論として位置づけられます。

【到達目標】

人々の教育に関する意見や要望、そして批判には、いろんな立場から多様な意見が噴出して、答えを出すのが非常に難しい状況にあります。

教育学原論では、教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識の獲得を目指します。そして、自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力の獲得を目指します。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・教育の意味と本質
- 第2回 教育目的の歴史の変遷
- 第3回 教育法規における教育の目的
- 第4回 西洋における教育の思想
- 第5回 学校制度の歴史的発展過程
- 第6回 単線型学校の成立と主要国の学校制度
- 第7回 日本の学校教育の歴史
- 第8回 我が国における義務教育制度の概要
- 第9回 教育課程の基礎
- 第10回 学習指導の基礎
- 第11回 家庭教育
- 第12回 生涯学習
- 第13回 教師教育
- 第14回 現代教育の課題
- 第15回 今日の学校教育の課題

【授業時間外の学習】

適宜、レポート課題や授業前の学習課題を指示します。

【成績の評価】

毎回の授業終了時に課するミニレポート(約30%)、レポート(約20%)、試験(約50%)の3つを以て、総合的に評価する。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】

佐々木正治編著『新 初等教育原理』福村出版、2014年、2500円。

【参考文献】

授業時に、適宜、紹介します。

科目名： 教育心理学

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

教師は、幼児・児童の発達、学習状態を正しくとらえ、それに応じて指導することが求められています。本講義では、児童・生徒の性格、知的能力（記憶、思考、学習）、やる気、学習指導と評価などについての基本的知識の獲得を目指します。また、特別な学習支援が必要な幼児・児童の学習過程についても、その特徴などを学びます。本講義の目標は「心理学による教育方法の充実」です。本講義の内容を理解すれば、皆さんが、今まで学校で学んできた授業やテストの方法、また先生のなにげない一言などにいろいろな意味が隠されていたことに気づくでしょう。

【到達目標】

1. 将来「せんせい」と呼ばれるようになるときに必要となる教育心理学の基礎知識を身につけることができる
2. そのような知識をどのようにして子どもの教育・保育に生かすことができるかを常に考える態度を身につけることができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 記憶（1）（記憶のメカニズム）
- 第3回 記憶（2）（効率的に覚える方法）
- 第4回 学習（古典的条件づけと道具的条件づけ）
- 第5回 学習の動機づけ（1）（達成動機づけ）
- 第6回 学習の動機づけ（2）（内発的動機づけと外発的動機づけ）
- 第7回 発達（臨界期）
- 第8回 知的能力の発達（IQとIQの測定方法）
- 第9回 人格の発達（発達課題と性格特性）
- 第10回 発達障害の理解と支援
- 第11回 学習指導（学習指導の形態）
- 第12回 教育評価
- 第13回 学級と社会
- 第14回 学級崩壊
- 第15回 教育心理学を学ぶ意味

【授業時間外の学習】

毎回の授業については、授業で使用したパワーポイントのスライドを担当教員の個人ウェブページで公開していますので、各自のノートとあわせて、復習に利用してください。また、各授業の終わりに、次回の授業内容に関するテキストの範囲を指示しますので、そのページを必ず読んでくるようにしてください。

【成績の評価】

授業への積極的参加（10%）、レポート（20%）、心理学実験・調査への参加（10%）、および、期末テスト（60%）の総合判断により行います。

【使用テキスト】

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著（2009）「やさしい教育心理学」（有斐閣）

【参考文献】

- 鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2005）「改訂版 やさしい教育心理学」（有斐閣）
- 森敏昭・青木多寿子・淵上克義 編（2010）「よくわかる学校教育心理学」（ミネルヴァ書房）
- 中澤潤 編（2008）「よくわかる教育心理学」（ミネルヴァ書房）
- 石井正子・松尾直博 編著（2004）「教育心理学 保育者をめざす人へ」（樹村房）
- 藤田哲也 編著（2007）「絶対に役立つ教育心理学」（ミネルヴァ書房）

科目名： 教育制度論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

「教育制度」という言葉は、やや「お堅い」言葉に聞こえるかもしれませんが。また、制度や法規に関連することは難しいのでできれば避けて通りたい…と思う人も少なくないと思います。

しかし、学校は、今日、私たちの暮らしを支える制度の1つとして機能しています。それ故に、学校には、その目的や制度のあり方、保育内容について様々な規定が設けられるとともに、多くの税金やその他の財貨が投入され、そこに教員をはじめとたくさんの人々が関わって、子どもたちの生活を支えているのです。それゆえに、教員に対する社会的使命や期待には大きなものがあると同時に厳しいものがあります。

本講義は、そのような点を考慮して、責任を果たせる教員としての意識づくりを図りたいと思います。また、採用試験も考慮して、法制面からのアプローチによって教育制度の理解を目指します。できるだけ、丁寧にわかりやすく講義することに努めますので、肩肘張らず受講して下さい。

この科目は、学部のポリシーに掲げる、小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための理論として位置づけられます。

【到達目標】

教育現場での1つ1つの行為が、社会的な制度の枠の中で運営されていることを理解し、自らの教育実践に取り組む姿勢を形成することを目指します。

この授業では、教育制度の基本的な枠組みを理解すると共に、制度構築の理念を理解して、教育制度に関する問題に自分なりの意見表明ができることを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション&教育制度を学ぶことの意味
- 第2回 教育法規の理論と体系
- 第3回 我が国の教育行政制度
- 第4回 我が国の教育行政の組織と機能
- 第5回 学校制度の歴史的発展過程（外国編）
- 第6回 学校制度の歴史的発展過程（日本編）
- 第7回 学校教育の法制
- 第8回 学校の制度と経営
- 第9回 教育課程の制度
- 第10回 教育の権利と義務
- 第11回 教職員の権利と義務
- 第12回 教職員の身分保障法制と研修
- 第13回 教育財政の法制
- 第14回 児童・生徒の管理
- 第15回 特別支援教育

【授業時間外の学習】

各授業の最後に復習と次回の予習のポイントを指示しますので、自己学習時に確認をしておいて下さい。また、自己学習の成果をレポートとして提出することを求めます。

【成績の評価】

出席カードへのコメント(約3割)、レポート(約2割)及び試験(約5割)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】

2017年4月刊行予定の書籍を使用します。

【参考文献】

授業時に、その都度紹介します。

科目名： 教育課程論

担当教員： 吉田 茂孝(YOSHIDA Shigetaka)

【授業の紹介】

本授業は、ディプロマ・ポリシーにある小学校・特別支援学校で直接に子どもの教育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備えるために、カリキュラム・ポリシーの子育てに関する基礎的総合的カリキュラムである「子育て支援に関する基礎科目」として、今後の専門科目の基盤になる教育課程の基本的内容を習得する。具体的には、教育課程・カリキュラムの編成と原理を学習する。特に、学習指導要領の変遷、今日の教育施策の特長、学力問題に焦点をあてる。

【到達目標】

教育課程・カリキュラムの理論的な背景とともに、現代の日本の教育状況と学校教育の課題をとらえ、学習指導要領の趣旨を理解した上で、学力の問題との関係について説明できることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 教育課程・カリキュラム、学習指導要領とは何か
- 第2回 現代の学習指導要領の基本的な考え方
- 第3回 隠れたカリキュラム(1) - 理論的背景
- 第4回 隠れたカリキュラム(2) - 具体的な事例と分析
- 第5回 教師と教育課程
- 第6回 日本における教育課程の変遷 - 経験主義
- 第7回 日本における教育課程の変遷 - 新教育批判と系統主義
- 第8回 日本における教育課程の変遷 - 「ゆとり」から現代へ
- 第9回 日本における教育課程の変遷の分析
- 第10回 教育課程の編成
- 第11回 学力問題(1) - 学びからの逃走
- 第12回 学力問題(2) - 「学力」低下と学習の質の問題
- 第13回 学力問題(3) - PISA調査と日本の教育への影響
- 第14回 学校づくりと教育課程
- 第15回 教育課程の現状・課題・展望

【授業時間外の学習】

履修する学生には、前時の復習が求められる。配布したプリントなどを熟読しておくこと。

【成績の評価】

提出物(ミニレポート(30%)・レポート(20%))、小テスト(50%)を総合して成績を評価する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

小学校学習指導要領 文部科学省
小学校学習指導要領解説総則編 文部科学省
田中博之『カリキュラム編成論』放送大学教育振興会、2013年。
古川治・矢野裕俊・前迫孝憲編『教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房、2015年。
山崎準二編『教育課程論』学文社、2009年。

科目名： 国語指導法研究

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

この授業は、小学校教諭1種免許状を取得する学生を対象とします。小学校の国語教育3領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）にわたって、その目的、内容評価について、原理原論的立場からと、実践的立場からの両面について考えます。小学校教諭の経験にもとづいた実践的教育理論、教育技術を紹介し、学生とともに検討していきます。本授業は、「子どもの教育にあたるための『理論』と『実践力』を兼ね備え（「学位授与の方針の一部」）るための「理論」に重きを置きます。

【到達目標】

- ・全領域を指導するために必要な国語科教育実践力を明らかにし、確かな理論に基づいた指導を実際に展開できるだけの実践力の向上を目指します。
新学習指導要領改訂のポイントである、基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
思考力・判断力・表現力の必要性とそれを育成する授業のあり方を具体的な指導場面を通して理解する。
- ・読解力の基盤となる「音読」の重要性を理解し、教育現場での国語科授業で児童に模範的なモデルとなる「範読」のトレーニングを行い、適切な範読ができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------------|-------------------------------------|
| 第1回 | [国語指導法研究]で何を学ぶか | ガイダンス(授業の進め方、音読・音読指導の説明と担当者、課題について) |
| 第2回 | 国語科の制度 | 一学習指導要領と教科書 音読と音読指導 |
| 第3回 | 発問・指示 | 音読と音読指導 |
| 第4回 | 板書・ノート | 指導・ワークシート 音読と音読指導 |
| 第5回 | 「話すこと・聞くこと」の授業 | 音読と音読指導 |
| 第6回 | 「話すこと・聞くこと」の授業 | 音読と音読指導 |
| 第7回 | 「書くこと」の授業 | 音読と音読指導 |
| 第8回 | 「書くこと」の授業 | 音読と音読指導 |
| 第9回 | 「読むこと」の授業 | 「説明的文章を読むこと」の教育 音読と音読指導 |
| 第10回 | 「読むこと」の授業 | 「説明的文章を読むこと」の教育 音読と音読指導 |
| 第11回 | 「読むこと」の授業 | 「文学的文章を読むこと」 音読と音読指導 |
| 第12回 | 「読むこと」の授業 | 「文学的文章を読むこと」 言葉を育む詩歌の授業 音読と音読指導 |
| 第13回 | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | の扱い方と言語事項 音読と音読指導 |
| 第14回 | 漢字文化の授業 | 音読と音読指導 |
| 第15回 | 国語課教育の現状と課題 | 国語指導法研究 の進め方について(模擬授業への準備について) |

【授業時間外の学習】

- ・小学校国語科の教科書に取り上げられている主な教材の音読の練習に当ててください。
- ・毎時間、小学校配当漢字の読み書き小テストを実施するので、その練習に当ててください。
- ・我が国の著名な国語教育実践記録の読後感想文（月1冊、計4回）に時間を当ててください。その中から1点を付属図書館「書評・感想文コンクール」に出品します。

【成績の評価】

期末テストでの評価を基本とします（80%）が、実践記録感想文・ノート等の提出物（10%）と併せ総合的に評価します。
連絡無しの欠席、提出物の締め切り以後の提出・未提出は、教職に就く者としての資質に大きく関わりますので大きな減点とします。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』（東洋館出版、2008年）116円
- ・東京書籍『新編 あたらしいこくご 一上 教番 131 国語（H27～）』（東京書籍2018）309円、同教科書『二上』398円、『三上』382円、『四上』296円、『五年』651円、『六年』651円

【参考文献】

- ・向山洋一『教師修行9 国語の授業が楽しくなる』（明治図書、1986年）2592円
- ・鶴田清司『読解力を高める国語科授業の改革 PISA型読解力を中心に』（明治図書、2008年）2268円
- ・宇佐見寛『国語科授業批判』（明治図書、1986年）2055円
- ・野口芳宏『』（教育新書13）（明治図書、1986年）870円
- ・全国国語授業研究会／筑波大学付属小学校国語研究部編著『読解力を高める 表現力を鍛える 国語授業の作り方』（東洋館出版社、2012）2592円

科目名： 国語指導法研究

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「国語指導法研究」と同様に、小学校教諭1種免許状を取得する学生を対象とした授業です。小学校の国語教育3領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）にわたって、実践を通して授業の目的、指導技術、内容評価等について考えていきます。中心的な活動は、学生による模擬授業です。小学校教諭の経験にもとづいた実践的教育理論、教育技術を紹介し、学生とともに検討していきます。

本授業は、「学位授与の方針」にある「子どもの教育にあたるための『理論』と『実践力』を兼ね備えるの、「実践力」に重きを置き、その育成をねらいとしています。

【到達目標】

模擬授業の実践を通し、「子どもの教育にあたるための『実践力』（学位授与の方針）」として、次の4つを身に付けることができる。

目標を明確にした授業を組み立て、指導略案をA4用紙1枚程度に表すことができる。

発問・指示・説明（指導言）の言葉を吟味し、揺れのない明確な指導言を発することができる。

必要な教材教具を準備し、授業で効果的に活用できる。

板書計画をA4用紙1枚に表すことができる。

全領域を実際に指導できるためのトレーニングを行います。また、新学習指導要領改訂のポイントである、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力を育成する授業のあり方を具体的な指導場面を取り上げて検討します。

【授業計画】

第1回	ガイダンス。「音読指導」の理論・指導技術・教師による範読	百人一首の指導（毎回）
第2回	教師による範読	
第3回	教師による範読	
第4回	「話すこと・聞くこと」教材を用いた模擬授業	
第5回	「話すこと・聞くこと」教材を用いた模擬授業	
第6回	「話すこと・聞くこと」教材を用いた模擬授業	
第4回	「音読指導」の理論・指導技術・評価	
第5回	「音読指導」の理論・指導技術・評価	
第7回	「音読指導」の理論・指導技術・評価	
第8回	「新出漢字の指導」の理論・指導技術・模擬授業	
第9回	「新出漢字の指導」の理論・指導技術・模擬授業	
第10回	「新出漢字の指導」の理論・指導技術・模擬授業	
第11回	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教育の実際と模擬授業	
第12回	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教育の実際と模擬授業	
第13回	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教育の実際と模擬授業	
第14回	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教育の実際と模擬授業	
第15回	これまで模擬授業の振り返りと、不合格者の再チャレンジ	

【授業時間外の学習】

・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の模擬授業を担当する際には、次の3点は必ず準備しておくこと。

担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。

学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。

模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。

【成績の評価】

「範読」（10%）、「話すこと・聞くこと」（20%）、音読指導」（15%）、漢字指導」（15%）、百人一首」（10%）「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（30%）の模擬授業をそれぞれ5段階評価し、学習指導案、実践記録の読後感想文も点数化したものたものを評価の基礎データとしますが、授業態度・意欲 模擬授業への取り組み状況等を併せて総合的に評価します。

連絡無しの欠席、提出物の締め切り以後の提出・未提出は、教職に就く者としての資質に大きく関わりますので大きな減点とします。

【使用テキスト】

・向山洋一『教育新書1 授業の腕を上げる法則』（明治図書、1985年）860円

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』（東洋館出版、2008年）116円

・東京書籍『新編 あたらしいこくご 一上 教番 131 国語（H27～）』（東京書籍2018）309円、同教科書『二上』398円、『三上』382円、『四上』296円、『五年』651円、『六年』651円

【参考文献】

- ・野口芳宏 『教員採用試験 シリーズ2018年度版「模擬授業・場面指導」』（一ツ橋書店、2016年）1188円

科目名： 社会科指導法研究

担当教員： 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro)

【授業の紹介】

社会科は子どもの社会認識を育てることによって、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを目標とする教科です。

この講義では、社会科の歴史と背景及び小学校学習指導要領解説社会編に示された目標、内容と指導上の配慮事項、評価等について述べ、さらに、教科書等を分析しながら、具体的事例をもとに理解を深め、授業計画を作成し、模擬授業を行います。将来、小学校で授業を行う際の「理論」と「実践力」を養います。

また、教材開発を目的とした、体験学習やフィールドワークを実施します。

【到達目標】

- (1) 教科の目標と各学年の内容及び指導上の配慮事項、評価について、理解を深めることができる。
- (2) 教科書や地域教材の分析を通して、カリキュラムについて理解を深めることができる。
- (3) 具体的な実践事例を通して教材性を探り、授業の展開についての理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会科の目標及び社会科の歴史と背景
- 第3回 社会科のカリキュラム
- 第4回 3年・教科書分析
- 第5回 4年・教科書分析
- 第6回 地域教材の取り扱い
- 第7回 資料研究・地図他
- 第8回 5年・教科書分析
- 第9回 5年・資料研究・地球儀、グラフ他
- 第10回 6年・教科書分析
- 第11回 歴史教材の取り扱い
- 第12回 指導案作成と模擬授業
- 第13回 指導案作成と模擬授業
- 第14回 体験学習
- 第15回 教材研究（フィールドワーク）

【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回授業の内容に関する課題を提示するので、使用テキストやワークシートもとに予習が必要です。

【成績の評価】

レポートや模擬授業等の結果とテスト結果をそれぞれ、50%として評価します。
小テスト、レポートについては、評価と解説を行い、授業の中で返却します。
試験については、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』（東洋館出版社 2014年）124円
小学校社会科教科書「新しい社会」3・4年上下、5年上下、6年上下（東京書籍 2014年）

【参考文献】

香川県小学校社会科教育研究会 著『基礎・基本の定着と発展の学習』（東洋館出版社）
香川県小学校社会科教育研究会 著『新学力観に立つ社会科授業』（明治図書）
安野 功著『社会科授業力向上5つの戦略』（東洋館出版社）

科目名： 社会科指導法研究

担当教員： 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro)

【授業の紹介】

社会科は子どもたちの社会認識を育てることによって、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを目標とする教科です。

社会科指導法研究を基礎に、本講座では授業づくりを中心に、小学校現場で役立つ模擬授業を行います。将来、小学校で授業を行う際の「理論」と「実践力」を養います。

また、国際貢献、伝統や文化の継承や地域の活性化など、社会参画を視野に入れた、魅力ある教材の開発に取り組みます。

もの作り体験やフィールドワークにも取り組みます。

【到達目標】

(1)教科書を基本に、魅力ある教材を使って、指導案を作成することができる。

(2)作成した指導案の基づいて模擬授業を行い、授業展開や教材の活用について考えることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人物中心の歴史学習
- 第3回 文化遺産を中心とした歴史学習
- 第4回 指導案作り
- 第5回 模擬授業
- 第6回 地域教材の取り扱い
- 第7回 地域教材の取り扱い
- 第8回 体験的な学習
- 第9回 6年下・教科書分析
- 第10回 指導案作り
- 第11回 模擬授業
- 第12回 指導案作り
- 第13回 模擬授業
- 第14回 総合的な学習の時間との関連
- 第15回 まとめ・学校教育の中で

【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回授業の内容に関する課題を提示するので、学習指導要領社会編、教科書の該当ページを中心に予習が必要です。

また、伝統や文化の教育の充実に向けて、県内各地の資料館等からの情報収集を行い、教材開発に取り組んでいきます。

【成績の評価】

レポートや模擬授業の成果とテストの結果をそれぞれ50%として評価します。

小テスト、レポートについては、評価と解説を行い、授業の中で返却します。

試験については、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』（東洋館出版社 2014年）124円

小学校社会科教科書「新しい社会」3・4年上下、5年上下、6年上下（東京書籍 2014年）

【参考文献】

香川県小学校社会科教育研究会著

香川県小学校社会科教育研究会著

教員養成コンソーシアム四国編集

『「社会科ノート」による思考力の育成』（東洋館出版社）

『新学力観に立つ社会科授業』（明治図書）

『博物館等の活用の手引き』

科目名： 算数指導法研究

担当教員： 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

算数科の授業の特徴を知り、学習指導のための指導案作りに取り組みます。教科書の様々な工夫を探ったり、小学生が陥りやすい思考のつまずきを考えたりしながら、子どもにとって分かりやすい指導法を学びます。また、算数の系統性、算数的活動、数学的な見方・考え方、問題解決的学習、児童の主体的学習など、算数指導の核となる内容について学びます。

【到達目標】

- ・分かる授業、楽しい授業ができるようになるためのポイントを探ることができる。
- ・簡単な学習指導案を作成することができる。
- ・適切な準備をして、模擬授業をすることができる。

【授業計画】

- 第1回 楽しい、分かる授業にするためのポイント(1)
- 第2回 楽しい、分かる授業にするためのポイント(2)
- 第3回 学習指導の基本と教科書の工夫
- 第4回 学習の基本(教材性について)
- 第5回 学習の基本(発問について)
- 第6回 学習の基本(評価について)
- 第7回 問題解決学習
- 第8回 主体的な学習の展開の考え方
- 第9回 学習指導案作成のポイント(1)
- 第10回 学習指導案作成のポイント(2)
- 第11回 学習指導案作成のポイント(3)
- 第12回 模擬授業のための指導案づくり(1)
- 第13回 模擬授業のための指導案づくり(2)
- 第14回 模擬授業及び討議(1)
- 第15回 模擬授業及び討議(2)

【授業時間外の学習】

次時の学習内容を予告するので、関連内容について、使用テキストによる予習が必要です。また、模擬授業のための学習指導案や教具作りに取り組んでほしい。

【成績の評価】

受講態度(10%)、学習指導案(20%)、模擬授業(20%)、期末試験(50%)により評価します。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説「算数」』(東洋館出版社 平成20年)250円
(本テキストは、「算数」「算数指導法研究」においても使用します。)

【参考文献】

香川県教育委員会 『さぬきの授業基礎・基本』(平成25年3月)

科目名： 算数指導法研究

担当教員： 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

「算数の授業が好き」「楽しい」という子どもを一人でも多くつくるのが大切です。そのためには授業がうまくできなければなりません。そこで、授業の中で大切にしなければならない要素（教材性、導入の工夫、考え方を広げる、どのようにまとめるか等）について学びながら、グループや個人で学習指導案を作成し、模擬授業を行います。

【到達目標】

- ・楽しい授業にしていくためのコツや準備の大切さが理解できる。
- ・子どもを引き付ける工夫、考えを広げるための発問、まとめ方、板書を考えながら模擬授業をすることができる。

【授業計画】

- 第1回 学習の基本（学習指導案づくりのポイント）（1）
- 第2回 学習の基本（学習指導案づくりのポイント）（2）
- 第3回 学習の基本（学習指導案づくりのポイント）（3）
- 第4回 学習の基本（授業の準備）
- 第5回 模擬授業のための学習指導案づくり（1）
- 第6回 模擬授業のための学習指導案づくり（2）
- 第7回 模擬授業と授業討議（1）
- 第8回 模擬授業と授業討議（2）
- 第9回 模擬授業と授業討議（3）
- 第10回 模擬授業のための学習指導案づくり（3）
- 第11回 模擬授業のための学習指導案づくり（4）
- 第12回 模擬授業と授業討議（4）
- 第13回 模擬授業と授業討議（5）
- 第14回 模擬授業と授業討議（6）
- 第15回 模擬授業と授業討議（7）

【授業時間外の学習】

次時の学習内容を予告するので、関連内容について、使用テキストによる予習が必要です。また、模擬授業のための学習指導案や教具作りに取り組んでほしい。

【成績の評価】

受講態度（10%）、学習指導案（20%）、模擬授業（20%）、期末試験（50%）により評価します。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説「算数」』（東洋館出版社 平成20年）250円
（本テキストは、「算数」「算数指導法研究」においても使用します。）

【参考文献】

香川県教育委員会『さめきの授業基礎・基本』（平成25年3月）

科目名： 理科指導法研究

担当教員： 藤本 一郎(FUZIMOTO Ichirou)

【授業の紹介】

児童にとって興味ある小学校の理科の授業を創るために欠かせない基礎となるものを身につけてもらいます。それは、小学校理科の学習内容の基本的な部分についてのまとまった理解と実験・観察を適切に安全に実施し指導ができる能力の二つが中心になります。この授業では、小学校学習指導要領に示された内容について、中学・高校まで見通したうえで基本となる概念や法則を確認し、実験・観察も行いながら、それらについての深い理解をめざします。その際、アルコールランプや顕微鏡、気体検知管、塩酸、水酸化ナトリウムなどの扱い方も、着実に身につけてもらいます。

【到達目標】

小学校理科の学習内容において基本となる概念・法則について、中学や高校で学習する内容と関連づけてとらえることができる。
基本的な、あるいは危険を伴う実験・観察について、教育効果と安全確保に配慮して、着実に実施できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校3年から6年までの理科学習の系統について
- 第3回 ろうそくを燃やし続けるにはどうすればよいか
物を燃やす働きのある気体は何か
- 第4回 物が燃える前と物が燃えた後では空気はどう変わるか
- 第5回 養分はどのように変化して体内に取り入れられるのか
どのように仕組みで消化・吸収されるのか
- 第6回 呼吸の働きと仕組みはどのようにになっているのか
- 第7回 全身の血液の流れと働きはどのようにになっているのか
- 第8回 植物の体内に入った水の行方はどのようにになっているのか
- 第9回 植物と日光の関係はどのようにになっているのか
- 第10回 太陽と月の表面はどのようにになっているのか
- 第11回 太陽と月の見え方と動きはどのようにになっているのか
- 第12回 地層はどのようにできるのか
- 第13回 地震や火山の噴火で大地はどのように変化するのか
- 第14回 てこを傾ける働きはどのようにになっているのか
- 第15回 水溶液にはどのような違いがあるのか

【授業時間外の学習】

授業中に実施した実験・観察について、レポートをまとめる。
数回程度、小テストを課します。

【成績の評価】

小テスト(40%)と実験レポート(40%)、授業への参加態度(20%)をもとに評価します。

【使用テキスト】

- 文部科学省編 「小学校学習指導要領解説 理科編」(大日本図書 2008)65円
- 文部科学省編 「実験観察の手引き」(HPからダウンロード)
- 文部科学省編 「新しい理科 6年」(東京書籍)923円

【参考文献】

なし

科目名： 理科指導法研究

担当教員： 藤本 一郎(FUZIMOTO Ichirou)

【授業の紹介】

小学生にとっても教師にとっても、意欲をもって取り組める理科の授業をつくり出すにはどうすればよいのかということ、そもそも授業とは、理科とは、実験とは、などということを考えながら、明らかにしていきます。その際、テキストにある具体的な授業例・実践例を題材として扱うようにして、子どもたちの自然認識の実態と発達の道筋についても理解を深めてもらいます。また、教師として是非、身につけておいてもらいたい科学の基本的な概念について学び直してもらうことも、意図的に授業に含みこんで展開します。

【到達目標】

理科の意義・必要性について筋が通った説明ができるようになる。
小学校理科で何が本質的な内容をとらえ、模擬授業ができる。
理科授業における実験の意義と役割をとらえることができる。

【授業計画】

- 第1回 水溶液の性質はどのようなものがあるか
- 第2回 発電はどのような仕組みでできるのか
- 第3回 電気はどのように利用されるのか
- 第4回 指導案の書き方
- 第5回 指導案の書き方
- 第6回 授業の組み立て方
- 第7回 模擬授業（複数名）討議
- 第8回 模擬授業（複数名）討議
- 第9回 模擬授業（複数名）討議
- 第10回 模擬授業（複数名）討議
- 第11回 模擬授業（複数名）討議
- 第12回 模擬授業（複数名）討議
- 第13回 模擬授業（複数名）討議
- 第14回 模擬授業（複数名）討議
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習】

授業中に配付した資料プリントを読んできて内容をまとめる。
指導案を作成し、模擬授業の内容を考える。

【成績の評価】

数回程度、小テストを課します。成績は小テスト（30%）及び模擬授業の内容（50%）、授業への参加態度（20%）をもとに評価します。

【使用テキスト】

- 文部科学省編 「小学校学習指導要領解説 理科編」（大日本図書 2008）65円
- 文部科学省編 「実験観察の手引き」（HPからダウンロード）
- 文部科学省編 「新しい理科 6年」（東京書籍）923円

【参考文献】

なし

科目名： 生活科指導法研究

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji)

【授業の紹介】

生活科の学習指導において教師に求められる視点は、児童主体の学習展開であり、児童が学びの対象である自然や社会にどのように働きかけるとよいかについて、学ぶ児童の立場に立って支援・援助することです。したがって、生活科の指導を行う上で基本となる学習指導要領の目標や内容についての理解を深めるために、花や野菜の栽培活動、生物の飼育活動、自然物や身の回りの物を使ったおもちゃづくりなど体験重視の学修を推進し、「分かる」とともに「できる」ように実践力を高めます。

【到達目標】

本授業では、小学校学習指導要領解説生活編の理解を図り、目標にそった単元構成や授業づくりができるようにすること、さらには、学習指導のための教材・教具の作成や学習環境の設定、内容の取扱いや校外学習における配慮事項等に関する理解を深め、実践的指導力の向上をめざします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活科の概要
- 第3回 内容(1) 学校と生活
- 第4回 内容(2) 家庭と生活
- 第5回 内容(3) 地域と生活
- 第6回 内容(4) 公共物や公共施設の利用
- 第7回 内容(5) 季節の変化と生活
- 第8回 内容(6) 自然や物を使った遊び
- 第9回 内容(7) 動植物の飼育・栽培
- 第10回 内容(8) 生活や出来事の交流
- 第11回 内容(9) 自分の成長
- 第12回 指導計画作成上の配慮事項
- 第13回 内容の取扱いについての配慮事項
- 第14回 生活科の授業参観
- 第15回 生活科と他教科や道徳との関連

【授業時間外の学習】

次時の学習内容を予告するので、関連内容について使用テキスト等により資料を準備します。作成した資料は、受講者全員に配布できるよう準備します。また、栽培飼育活動は、当番を決めて責任を果たすようにします。

【成績の評価】

小テスト(60%)やレポート(20%)、授業への参加態度、日常活動(20%)等をもとに評価します。小テスト、レポートについては、その都度、結果を授業時に説明、講評してフィードバックを行う。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説生活編』(日本文教出版、2008年)101円

【参考文献】

香川県生活科教育研究会『小学校低学年教育を創る』(松林社、1999年)2000円
香川県生活科教育研究会『「振り返り学習」をしてみませんか』(松林社、2006年)1850円

科目名： 生活科指導法研究

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji)

【授業の紹介】

生活科の学習指導において教師に求められる視点は、児童主体の学習展開であり、児童が学びの対象である自然や社会にどのように働きかけるとよいかについて、学ぶ児童の立場に立って支援・援助することです。「生活科指導法研究」の学びを基に、生活科の指導を行う上で必要となる基本的な力量を身に付けていきます。そのために、グループ（個人）で単元を決めて、単元構想案及び学習指導案づくり、模擬授業を行い、協議・検討することを通して生活科の指導法についての実践力を高めていきます。また、栽培、飼育活動は続けていきます。

【到達目標】

本授業では、生活科学習指導案が作成できるようになることをめざします。実際の授業に生かせるよう模擬授業及び授業についての協議・検討を通して、指導技術・技能や教材開発、知恵・アイデアを身に付けます。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活科の課題と学習指導要領改善の基本方針
- 第3回 グループ分けとグループごとの計画
- 第4回 単元構想案、学習指導案づくり
- 第5回 学習指導案づくり(1)、教材研究
- 第6回 学習指導案づくり(2)、教材・教具づくり
- 第7回 模擬授業及び研究協議(1)（グループ）
- 第8回 模擬授業及び研究協議(2)（グループ）
- 第9回 模擬授業及び研究協議(3)（グループ）
- 第10回 学習指導案の修正
- 第11回 模擬授業及び研究協議（全体）
- 第12回 地域連携について
- 第13回 保幼、小の連携における課題
- 第14回 総合的な学習の時間との関連
- 第15回 生活科が小学校教育に果たす役割

【授業時間外の学習】

生活科では、学習の場を児童の生活圏である学校、家庭及び近隣地域に求め、学習の素材は、自分と社会や自然との関わりが具体的に把握できるものとするところから、日常生活の中で、社会認識や自然認識への気づきに関わる教材発見に努め、教材ノートを作成していきます。取材、採集の課題は、授業最後に提示します。また、栽培・飼育に関する「水やり、餌やり」は、日常活動とします。

【成績の評価】

小テスト(60%)やレポート(20%)、授業への参加態度、日常活動(20%)をもとに評価します。小テスト、レポートは、その都度、結果を授業時に説明、講評してフィードバックを行う。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』（日本文教出版、2008年）101円

【参考文献】

- 香川県生活科教育研究会編著『小学校 低学年教育を創る』（松林社、1999年）2000円
- 香川県生活科教育研究会編著『「振り返り学習」をしてみませんか』（松林社、2006年）1850円

科目名： 音楽指導法研究

担当教員： 中山 真利子(NAKAYAMA Mariko)

【授業の紹介】

小学校教員をめざす人のための、音楽の指導法を学ぶ授業です。実際に音楽の授業を行うときに必要なピアノ伴奏などの技術と知識、理論を学びます。表現芸術である音楽は、子どもの情操教育を担う役割をもつ意義においても、今後ますます重要視される大切な教科と言えるでしょう。指導者は、表現者としても十分に訓練を受けて現場に臨みたいものです。

本講義は、初等科音楽科の歌唱共通教材の弾き歌いの演習を中心に授業を進めていきます。準備が大変かもしれませんが、チャレンジ精神を発揮して、課題に取り組んで下さい。

【到達目標】

初等科音楽科の授業を行うために必要な知識と技術を身に付けるための基盤を培う。具体的には、歌唱共通教材、うみ・春がきた・夕やけこやけ、の弾き歌いができるようになり、その中に出てくる楽典の知識を得る。また、学習指導案を書く。全体を通じて「音楽に対する感性を育てる」ためにはどうすればよいかを考える。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション、各自のピアノ技術の進捗調査。一曲演奏のこと（自由曲）
第2回	小学校学習指導要領（音楽）について、教科書全体の内容概説
第3回	これより歌唱共通教材の研究と演習 ピアノ伴奏、弾き歌い実技指導
第4回	第1学年 うみ かたつむり 音楽科の目標
第5回	“ ト長調 - 教科の目標
第6回	第2学年 春がきた 夕やけこやけ - 各学年の目標
第7回	“ 記号と形式 伴奏法
第8回	“ 左手の練習 - ピアノの弾き歌いとコード伴奏
第9回	“ 作詞者・作曲者について発表 指揮法
第10回	“ 夕やけこやけ模擬授業 - 歌唱教材で練習
第11回	第3学年 茶つみ 春の小川 音楽科の指導内容
第12回	“ リズムを生かして - 表現
第13回	“ 階名唱と移動ド - 鑑賞
第14回	学習指導案作成、全員で斉唱 - 共通事項
第15回	授業のまとめ。低学年の指導のポイントについて発表

* 授業の中で教科書を音読していただきます。* 楽典の小テストを行います。

【授業時間外の学習】

初回到ピアノ演奏を披露していただきます。各人の得意な曲を1曲、試験等で弾いた曲で構いませんので、準備（練習）をお願いします。以下、第15回に至るまで、この科目は、各自の授業時間外の学習なしでは成り立ちません。音楽の先生にふさわしい技術の習得を目指して、日々、練習に励んで下さい。その他、教科書音読には予習が、理論の到達度をみるための月例テストには復習が必要です。毎回、次の授業について打ち合わせをするので、自分なりの練習、あるいは予習を積んで授業に臨んで下さい。

【成績の評価】

学期末に実技試験（50％）を行います。その点数を中心に授業に取り組む姿勢（30％）、提出物（20％）などで総合評価します。

【使用テキスト】

初等科音楽教育研究会編『最新 初等科音楽教育法 改訂版』（音楽之友社 2011年）2,052 円

【参考文献】

監修 坂井康子『歌おう 弾こう こどもとともに』（ヤマハミュージックメディア 2006年）2,592 円
必要に応じて、資料及び自作のプリントを配付します。

科目名： 音楽指導法研究

担当教員： 中山 真利子(NAKAYAMA Mariko)

【授業の紹介】

音楽指導法研究 に引き続き、歌唱共通教材を中心に、よりグレードを上げながら小学校音楽科の指導法を学びます。弾き歌いは、教育の現場に通用するよう技術をさらに高め、また、歌詞の内容を理解して、その表現に意識が向かうように演習を進めます。

一方、全員で分担している”教科書の音読”は同様に行いますが、今回は、これを通して教育実践のプロセスを辿り、意義を探ります。特に、指導案の作成において重要である「学習指導計画」の流れを体系的に学ぶことで、作成のための基礎を習得していきたいと思えます。

授業の中で発表の機会を増やして、人前に慣れていただくとともに、児童にとっての音楽について皆で考えるようにしたい。皆さんの積極的な参加を望みます。

【到達目標】

初等科音楽科の授業を行うために必要な知識と技術を身に付けるための基盤を培う。具体的には、歌唱共通教材、もみじ・ふるさと、の弾き歌いができるようになり、その中に出てくる楽典の知識を得る。また、学習指導案を書く。全体を通じて「音楽に対する感性を育てる」ためにはどうすればよいかを考える。

【授業計画】

第1回	第4学年	とんび もみじ	学習指導計画について
第2回	〃	楽曲について	- 年間指導計画
第3回	〃	へ長調	- 題材の構成
第4回	〃	情景を思い浮かべて歌う	- 学習指導案の作成
第5回	模擬授業	自然で無理のない声	- 学習指導案作成の実際
第6回	第5学年	スキーの歌 冬げしき	
第7回	〃	季節教材の表現	
第8回	〃	旋律線にふさわしい歌い方	
第9回	第6学年	おぼろ月夜 ふるさと	音楽学習の評価
第10回	〃	楽曲について	- 評価の観点と方法
第11回	〃	作詞者・作曲者	歌唱の意義と留意点
第12回	〃	歌詞朗読	- 自然で無理のない発声
第13回	〃	気持ちを込めて歌う	- 学年に応じた指導
第14回	学習指導案作成、全員で斉唱		
第15回	総括、音楽の授業とは何か	- 豊かな感性をはぐくむために必要なこと	

* 授業の中で教科書を音読していただきます。* 楽典の小テストを行いません。

【授業時間外の学習】

引き続き、ピアノと弾き歌いの練習を、毎日行ってください。また、教科書の音読は、今期()の内容)、難解な語句も多くて煩雑であるので、事前にしっかり読み込んで、用語をある程度理解しておくことをお勧めします。友達同士で文部省唱歌を弾き(聴き)合ったり、本を読んだりしては如何がでしょうか。

【成績の評価】

学年末に実技試験を行います。その点数を中心に授業に取り組む姿勢、提出物などで総合評価します。

【使用テキスト】

初等科音楽教育研究会編『最新 初等科音楽教育法 改訂版』(音楽之友社 2011年)2,052 円

【参考文献】

監修 坂井康子『歌おう 弾こう こどもとともに』(ヤマハミュージックメディア 2006年)2,592 円

監修 中田喜直他『日本童謡唱歌体系』(東京書籍 1997年)

必要に応じて、資料及び自作のプリントを配付します。

科目名： 図画工作指導法研究

担当教員： 速水 史朗(HAYAMI Shiro),速水 規里(HAYAMI Misato)

【授業の紹介】

まず皆さんに、絵を描く・粘土で顔を作るなどの表現及び美術館の観賞などの活動を通して、図画工作の苦手な人にも取り組みやすく、作り出す喜び、美術にふれる楽しさを自ら体験していただきます。それにともない、児童生徒の造形的な創造活動の基礎的な能力を育て豊かな情操を養い、「生きる力」の育成をめざす、という小学校における図画工作の教育内容にそって、指導法を考察してゆきます。どのようなテーマで、どのような材料を使って、どんな活動をすることが考えられるか、どのような活動が適切であろうか、またどの様な観賞が考えられるかなどを、具体的実地的な体験から考察してゆく授業です。それを図画工作の学習指導法に活かしてゆきます。

【到達目標】

児童生徒へのアプローチや授業の目的を考えながら、平面及び立体制作を自身で体験したり、また、美術の観賞をすることで、図画工作のいろいろな教育内容を適切に具体的に体験する事が出来ます。それをいろいろな場面に当てはめながら、「児童生徒一人一人が表現の楽しさを覚え、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わい、造形的な能力を培い、豊かな情操を養う」という目標を持った指導方法を考察し、構築してゆく力を身につけることを目指します。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・講師自己紹介
- 第2回 学生自己紹介(自己アピールによるコミュニケーション)
- 第3回～第4回 色彩構成(平面)
- 第5回～第7回 紙による立体構成
- 第8回～第9回 美術鑑賞(美術館など)
- 第10回～第11回 絵を描く(人物・彩色)
- 第12回～第13回 粘土による造形
- 第14回～第15回 学習指導案作成
- 第16回～第17回 コラージュ制作
- 第18回～第19回 美術鑑賞(美術館等)
- 第20回～第21回 平面デザイン(絵手紙等)
- 第22回～第26回 木のレリーフ制作
- 第27回～第28回 自画像(鉛筆デッサン)
- 第29回 学習指導案作成
- 第30回 学習指導案作成及び発表

各実習の進行により他の要素が加わることもあり、スケジュールが入れ替わることがあります。特に、美術の鑑賞で美術館に行く授業の時は、内容に合わせて補講に振り替え、土曜日の3 - 4校時を予定しています。

【授業時間外の学習】

実習で行ういろいろな課題を、どの様に授業に活かしてゆくかを考えながら課題に取り組んでいただきます。原則として授業時間内に課題を完成提出、提出出来なかった場合は次週提出となります。また、休んだ場合(実習、個人の理由ともに)も、何らかの課題を提出していただきます。美術の観賞(美術館等)の場合は、「観賞の感想、授業としてどう活かすか」を、次週にレポート提出です。それらが、指導案の作成に繋がります。

【成績の評価】

受講態度、課題提出(期限を守れたか等も含む)、発表、授業に対する理解度等を総合的に判断します。各課題、レポート(70%)、学習指導案(30%)。それぞれの課題については、次回もしくはその次の授業開始時に講評を行います。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作』(日本文教出版、2008年)87円(2015.12現在)

【参考文献】

なし

科目名： 家庭科指導法研究

担当教員： 中村 真由美(NAKAMURA Mayumi)

【授業の紹介】

この授業は、小学校教諭一種免許状取得を目指す学生を対象としています。
家庭科教育の特徴と、小学校家庭科が果たす役割について知るとともに、中学・高校までの家庭科教育を見通した上で小学校家庭科では何をどう教えるべきであるのかを考えます。そして、学習指導要領に示された目標、内容、指導上の留意点などを理解した上で、学習指導案を作成し、グループごとに模擬授業を行います。基礎的・基本的な知識や技能の習得のために、実習も行いますので、裁縫道具や布地などの資材、白衣またはエプロン、三角巾、布巾などの準備が必要です。

なお、この授業の受講前に「家庭」を履修しておくことを希望します。

【到達目標】

小学校家庭科の教育的意義を認識する。

小学校家庭科の教科内容を理解した上で授業計画を構想し、学習指導案を作成することができる。

小学校の家庭科の授業を展開するために必要な基礎的・基本的な知識や技能を習得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス（授業のねらいと進め方について）
- 第2回 小学校家庭科教育の変遷
- 第3回 小学校家庭科教育の意義とねらい及び内容
- 第4回 小学校家庭科の授業づくり
- 第5回 「家庭生活と家族」、「身近な消費生活と環境」の学習内容
- 第6回 「快適な衣服と住まい」の学習内容
- 第7回 「生活に役立つ物の製作」手縫いの基礎
- 第8回 「生活に役立つ物の製作」ミシン縫いの基礎とティッシュケースの製作
- 第9回 「日常の食事と調理の基礎」の学習内容
- 第10回 調理実習
- 第11回 調理実習
- 第12回 模擬授業の計画
- 第13回 模擬授業及び授業観察
- 第14回 模擬授業及び授業観察
- 第15回 小学校現場における家庭科指導の要点

【授業時間外の学習】

レポートや課題を出しますので、その都度締め切り厳守で提出してください。授業内容によっては準備物が必要になる事もありますので、授業までに準備をしておいてください。家庭科の指導においては知識だけでなく技能も必要です。授業で学んだ技能は各自しっかり復習し、修得してください。

また、家庭科は生活に関わる内容を取り扱う教科です。各自が科学的な視点で日々の生活を見つめ直し、自分の生活の中で主体的に実践し、自立した生活者として生活することを日常的に心がけてください。

【成績の評価】

授業態度及び意欲（10%）、実習や模擬授業の準備及び取り組み方（10%）、提出物の提出状況及びその内容（50%）、試験の結果（30%）で判断します。

なお、提出物の提出期限を過ぎての提出及び未提出、事前連絡なしの遅刻、欠席は減点とします。

また、被服製作及び調理実習の出席は必須とし、準備なしでの実習の授業への出席は認めません。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』（東洋館出版社、2008年）90円（税抜）
- ・『新編 新しい家庭5・6』（東京書籍）274円（内税）

【参考文献】

講義の中で説明します。

科目名： 体育指導法研究

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi)

【授業の紹介】

平成20年に改定された小学校学習指導要領「体育科」では、体育科の目標を「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」としています。つまり、小学校体育では児童のスポーツ愛好度を高めることを重視した授業を求めています。本授業では児童が「夢中になって取り組める授業づくり」ができる知識や技能を修得し、創造的な教材開発力と授業実践力を身に付けることをめざします。

【到達目標】

1. 小学校体育科の目標の理解を深め授業実践例をもとに教材づくり、授業法についての知識や技能を修得します。
2. 修得した知識や技能を活かし学習計画を作成し、模擬授業などの実践活動を通し体育の授業ができるようになります。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2～5回	低学年の体育科の目標と内容
第6～9回	中学年の体育科の目標と内容
第10～13回	高学年の体育科の目標と内容
第14回	体育の授業づくり 教材づくり
第15回	体育の授業づくり 授業の進め方
第16回	体育の授業づくり 教師の教え方
第17～18回	体育の授業づくりと模擬授業 体力づくり運動
第19～20回	体育の授業づくりと模擬授業 器械運動系
第21～22回	体育の授業づくりと模擬授業 陸上運動系
第23回	体育の授業づくり 水泳系
第24～25回	体育の授業づくりと模擬授業 ボール運動系
第26～27回	体育の授業づくりと模擬授業 表現運動系
第28～29回	保健の授業づくり
第30回	まとめ(授業づくりについての討論)

【授業時間外の学習】

事前に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、グループ単位で任意に単元(種目)を選び、授業計画案を立て模擬授業を行っていただきます。日頃から授業で学んだ内容の振り返りを励行し授業計画が立案できるようにして下さい。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験(40%)、授業づくり(40%)、学習態度(20%)によって行い、総計60%以上を合格とします。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』(東洋館出版、2008年)

【参考文献】

安彦忠彦監修『小学校指導要領の解説と展開 体育編』(教育出版、2008年)

高橋健夫ら編著『体育科教育学入門』(大修館、2008年)

岡田泰士編著『体育の指導者を育てる』(美巧社、2009年)

科目名： 道徳教育論

担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

今日の学校における道徳教育の担うべき役割について、これまでの道徳教育の歴史的変遷と児童生徒を取り巻く今日的状況を踏まえ、その認識を深めます。また、学習指導要領をもとに、これからの道徳教育の基本的な在り方について検討するとともに、要としての道徳の時間の指導を中心に、教材分析や指導案づくりを通して、具体的な指導の在り方について考えます。そして、様々な指導論や指導事例等についても紹介します。

【到達目標】

道徳教育に関する基本的な理解（学習指導要領の目標や内容、指導の基本的な在り方）を深められるようにします。その上で、教材分析や指導案作成、模擬授業等を通して、道徳の時間の指導を具体的に展開できるようになることを目指します。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 道徳教育の歴史的変遷
- 第3回 道徳教育の意義と役割
- 第4回 道徳教育の目標と内容
- 第5回 道徳教育の基本的な在り方
- 第6回 道徳の時間の指導とその実際(1) < 師範授業のビデオの視聴と話し合い >
- 第7回 道徳の時間の指導とその実際(2) < 前時を踏まえ指導のポイントの解説 >
- 第8回 道徳の時間における教材とその分析(1) < 教材分析の基本に関する講義 >
- 第9回 道徳の時間における教材とその分析(2) < 教材分析を踏まえた指導の展開 >
- 第10回 道徳の授業づくり(1) < 指導案の書き方 >
- 第11回 道徳の授業づくり(2) < 指導案作成 >
- 第12回 道徳の授業づくり(3) < 模擬授業 >
- 第13回 道徳教育の指導論
- 第14回 道徳教育推進上の課題
- 第15回 まとめ < 本授業での学びの交流と今後の課題の共有 >

【授業時間外の学習】

テキストの該当箇所やあらかじめ配布された資料をもとに、次回の予習をするとともに、講義を受けた後の復習をし、各自ノートでの整理とまとめを行うこと。また、指導案作成に関する宿題については、調べ学習をするなどして、グループによる協働作業に生かすことができるようにすること。

【成績の評価】

授業での参加態度（発表、話し合い、グループ活動等）（30％）、小課題（20％）、レポート（50％）などを組み合わせて総合的に評価する。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』（東洋館出版社、平成20年）127円

【参考文献】

適宜紹介する。

科目名： 特別活動の研究

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji)

【授業の紹介】

特別活動は、教育課程の中で、教科、道徳と並んで、児童生徒の人格形成を図る上で重要な役割を果たしてきました。特に昨今、青少年による様々な事件や問題行動が起こる中で、人間関係がうまく築けない、あるいは自分に自信がもてない児童生徒の増加が指摘されています。特別活動では、このような点について、個の確立やよりよい人間関係を築きながら、自己実現を図る上での資質能力の形成が図られるよう望ましい集団活動を通して学ぶことをめざしています。学力低下が指摘される中で、ややもすれば教科学習にばかり目が行きがちですが、人格の形成をめざす義務教育においては、教師が一人一人の児童生徒の知・徳・体のバランスのとれた成長発達を促すことができるよう、その指導の在り方について学ぶことは非常に重要です。特別活動は、以上のような意味から、教員免許を取得する上で、必修科目となっています。

【到達目標】

本授業においては、まず、「特別活動」の位置づけについて、その歴史的変遷も含めて理解します。そして、小学校学習指導要領解説特別活動編をもとに、目的や内容、指導上の留意点等について把握し、この学習の意義や学習の在り方についての理論的理解を深めます。その後、学級活動や児童活動、クラブ活動、学校行事の各内容について、具体事例をもとに考察し、「特別活動」の基本的指導について創造性や実践力を身に付けます。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 特別活動の歴史的変遷
- 第3回 特別活動の目的と内容
- 第4回 特別活動と生徒指導
- 第5回 学級活動（年間指導計画の内容）
- 第6回 学級活動（年間指導計画作成の手順と留意点）
- 第7回 児童会活動
- 第8回 クラブ活動
- 第9回 学校行事（年間指導計画の内容と計画例）
- 第10回 学校行事（個別の行事指導計画の例）
- 第11回 特別活動の実際（計画）
- 第12回 特別活動の実際（実施）
- 第13回 特別活動の実際（発表）
- 第14回 特別活動の実際（まとめ）
- 第15回 現代的教育課題と特別活動の指導

【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回授業の内容に関する課題を提示するので、使用テキスト「小学校学習指導要領解説特別活動」の該当ページを中心に予習が必要です。また、実際の特別活動の内容について模擬授業を行うので、授業時間外に各自資料準備をします。

【成績の評価】

小テスト(60%)やレポート(20%)、授業の参加態度(20%)等をもとに評価します。小テスト、レポートについては、その都度、結果を授業時に解説、講評してフィードバックを行う。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説特別活動編』（東洋館出版社、2008年）134円

【参考文献】

原 清治・檜垣公明編著 『特別活動の創造』（学文社、2011年）2100円
高橋哲夫・原口盛次・井上裕吉・今泉紀嘉・井田延夫・倉持博著 『特別活動研究』（教育出版 2010年）2000円

科目名： 教育の方法及び技術
担当教員： 松下 文夫(MATSUSHITA Humio)

【授業の紹介】

現代は高度情報通信社会と言われるように、スマホやタブレット型情報端末等に代表される各種の情報メディアが開発され、容易に大量の情報生成、蓄積、流通等が可能になり、その普及は今やパソコンを凌駕する勢いです。このような社会で求められる能力は、インターネットや新しいICTを活用し、必要とする情報の選択、加工、創造、伝達等に関わる新しいコミュニケーション能力です。しかし、従来の一斉指導形態の授業では限界があります。そのためには、学習者の興味・関心や学習スタイルなどの個性に対応した弾力的で多様な学習形態が要求されます。

この科目では、学習者の豊かな発想や興味・関心に対応できる学習形態の中で、経験、観察や調査、情報検索、映像やCGなどが活用できる自由度の高いメディアの選択とその構成、活用が可能な教育の方法と技術が修得できることをめざします。

【到達目標】

1. 教育実践に必要な教育の方法に関する基礎的・基本的な知識の理解、技術の習得ができる。
2. 新しい学力観に対応した教授学習システムを設計することができる。
3. 情報ネットや情報メディアなど、ICTを活用した教育技術の習得ができる。
4. 新しい教育の方法・技術の活用法を習得することで、教育者としての資質・力量の向上をめざす。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 子どもの発達と教育の意義 |
| 第3回 | 学習指導要領と学力観の変遷 |
| 第4回 | 情報社会の変遷と情報活用能力 |
| 第5回 | 学校におけるICTの活用 |
| 第6回 | 動機付け・教育評価 |
| 第7回 | 認知・記憶 |
| 第8回 | 教育の方法 / プログラム学習とCAI |
| 第9回 | 教育の方法 / マスタリー・ラーニング |
| 第10回 | 教育の方法 / アクティブ・ラーニング |
| 第11回 | 教育技術 / ICT 活用と教授学習システムの設計 |
| 第12回 | 教育技術 / 問題解決学習・総合的な学習 |
| 第13回 | 教育技術 / 授業研究とマイクロティーチング |
| 第14回 | 情報社会の光と影・情報モラル |
| 第15回 | 教育の方法及び技術のまとめと展望等 |

【授業時間外の学習】

配布された印刷物は、随時、ファイリングし、授業での活用のほか、授業前の予習、授業後の復習や期末試験に向けたまとめなどにも利用しましょう。

【成績の評価】

課題別レポート(約30%)、期末試験(約70%)等を勘案しながら総合的に評価します。レポートについては、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

なし

科目名： 生徒指導の研究（進路指導を含む）

担当教員： 植田 宗士(UETA Muneo)

【授業の紹介】

近年、学校教育の現場においては、いじめ、不登校、校内暴力、非行の低年齢化など、さまざまな生徒指導上の問題が発生している。

また、ニート、フリーター、早期離職率の増加など、学校教育修了後の就業のあり方や職業観の育成に関わる進路指導上の課題への取り組みも求められている。

このような現状を踏まえ、児童生徒に生きる力を身につけさせ、自己実現を図らせる生徒指導や進路指導のあり方について、小学校での具体的な事例を通して、理論と実践力を備えた、心豊かで創造力を身につけた小学校の教師を育てる授業である。

【到達目標】

学校における生徒指導や進路指導の意義やあり方について理解を深めるとともに、小学校の具体的な事例に即して、それらの指導に関する実践的方策を立てる能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 授業をはじめるとあってー授業の内容・方法等 -
- 第2回 生徒指導の意義と課題について
- 第3回 教育課程における生徒指導の位置づけ
- 第4回 学校運営と生徒指導について
- 第5回 教科における生徒指導について
- 第6回 道徳教育における生徒指導について
- 第7回 特別活動における生徒指導について
- 第8回 児童生徒理解について
- 第9回 児童生徒誓いの資料とその収集
- 第10回 生徒指導に関する法制度について
- 第11回 進路指導の意義と課題について
- 第12回 就労観・職業観の形成と変容
- 第13回 学校における進路指導体制について
- 第14回 学校における進路指導の実践例
- 第15回 進路指導実践の今日的課題について

【授業時間外の学習】

授業と関連する学校の事例や新聞報道などについて課題を出す。

【成績の評価】

授業の概要の提出（20%）、課題の提出（20%）、期末試験（60%）の結果をもとに総合的に評価する。課題については、授業において、適宜解説を行う。

【使用テキスト】

なし。 随時資料は配布する。

【参考文献】

『生徒指導提要』（文部科学省） 平成22年3月

科目名： 教育相談

担当教員： 植田 宗士(UETA Muneo)

【授業の紹介】

教育相談は、児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、自己理解を深め、人格の成長への援助を図るものである。いじめや不登校・非行など児童生徒の問題は、多岐にわたり、複雑かつ深刻である。これらの問題には、教師の早期発見・早期対応が求められ、教育相談の重要性も高まっている。

本講座では、教育活動のさまざまな場面におけるカウンセリングのあり方やその方法について、具体的な事例の学習を通して、理論と実践力を備えた、心豊かで創造力を身につけた教師を育てる授業である。

【到達目標】

教育相談の重要性を認識し、子どもの心の理解と思いやりの心に立って、さまざまな事例に対し臨機応変に適切な援助や助言ができる。

【授業計画】

- 第1回 授業をはじめるにあたって
- 第2回 教育相談の意義と役割
- 第3回 教育相談の体制の構築
- 第4回 教育相談の心得
- 第5回 児童理解とその方法
- 第6回 教育相談の進め方(1) - 学級担任 -
- 第7回 教育相談の進め方(2) - 教育相談担当者・養護教諭等 -
- 第8回 教育相談の進め方(3) - スクールカウンセラー・関係機関との連携 -
- 第9回 保護者・家庭への対応
- 第10回 問題行動への対応
- 第11回 教育相談の実践(1) - 少年非行 -
- 第12回 教育相談の実践(2) - 不登校 -
- 第13回 教育相談の実践(3) - いじめ -
- 第14回 教育相談の実践(4) - 集団生活になじめない児童 -
- 第15回 教師としての資質を高める

【授業時間外の学習】

授業の中で問題提起となる課題を提示し、その回答を通して教育現場における諸問題に関心を持たせるとともに、授業の復習と予習の習慣化を図る。また、授業に関連する資料の収集と整理の仕方について指導するとともに、常に課題意識を持たせる。

【成績の評価】

授業の概要の提出(20%)、課題の提出(20%)、期末試験(60%)の結果をもとに総合的に評価する。課題については、授業において適宜解説等を行う。

【使用テキスト】

なし。随時、資料を配布する。

【参考文献】

菅野 純『教師のためのカウンセリングワークブック』(金子書房)2004年3月

科目名： 教育実習事前事後指導（幼）

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

教育実習事前事後指導は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うもので、実習の前後に講義・演習を行います。幼稚園教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるように学びます。また、保育に必要な知識・技能を取得しようとする意欲を高め、保育技術を身に付けることを目指します。本学の場合、実習園の協力を得て、2年生で「観察参加」・「観察参加」を履修し、幼稚園の現場体験を行っているため、園生活の様子や幼児の実態を理解した上で実習し、質の高い実践力を身に付けることができるようにしています。

【到達目標】

- (1) 幼稚園教諭の業務や職業倫理について理解し、保育者としての使命感や倫理観を培う。
- (2) 自己評価および自己課題の明確化を通して豊かな人間性をはぐくむ。
- (3) 保育に必要な知識や判断力を習得する。
- (4) 指導計画の作成・実践・記録・評価を通して保育者として必要な技能、実践力を習得する。

【授業計画】

- 第1回 教育実習の意義と目的
- 第2回 教育実習の概要
- 第3回 保育実践の要件
- 第4回～第5回 保育を計画する
- 第6回 保育の実践
- 第7回 実習日誌の実際
- 第8回 実習直前の準備と心得
- 第9回 教育実習の振り返り
- 第10回 教育実習の振り返り（グループ協議）
- 第11回 幼児同士のトラブルの対応（事例研究）
- 第12回 実習日誌の作成
- 第13回 教育実習に向けてのオリエンテーション
- 第14回 指導計画の作成
- 第15回～第16回 保育の実践
- 第17回 教育実習の振り返り
- 第18回 教育実習の振り返り（グループ協議）
- 第19回 教育実習報告会に向けて
- 第20回 教育実習報告会
- 第21回 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化
- 第22回 幼児理解と援助（事例研究）
- 第23回 まとめと今後の課題

【授業時間外の学習】

幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめ、教育実習における各自の課題を見出しておくとともに、実技演習や教材製作など積極的に取り組んでください。

【成績の評価】

受講態度（20%）、課題・学習シートのまとめ（40%）、実習レポート（40%）により評価します。なお、教育実習事前事後指導は、教育実習及び教育実習と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館、2008年）205円
文部科学省『幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開』（フレーベル館、2013年）270円

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 教育実習事前事後指導（小）

担当教員： 高橋 英弉(TAKAHASHI Eiji), 植田 宗士(UETA Muneo), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

教育実習事前事後指導は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うもので、実習の前後に講義・演習を行います。

教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにしていきます。また、教育活動に必要な知識・技能を習得しようとする意欲を高め、教育技術を身に付けることをめざします。2年次における「学校ボランティア」で、小学校の現場体験を行っているため、学校生活の様子や児童の実態を理解した上で実習し、質の高い実践力を身につけることができるようにしています。

【到達目標】

- (1) 小学校教諭の業務や職業倫理について理解し、教師としての使命感や倫理観を培う。
- (2) 自己評価および自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育む。
- (3) 学校教育活動に必要な知識や判断力を習得する。
- (4) 学習指導計画の作成・実践・記録・評価等を体験する中で、教師として必要な技能、実践力を習得する。

【授業計画】

- 第1回 教育実習の意義と目的について
- 第2回 教育実習の概要・心得・態度等について
- 第3回 教育実習の内容と方法、実習日誌の書き方について
- 第4回 学習指導案の書き方と教材準備の仕方
- 第5回 各種トラブル等の具体的解決策について
- 第6回 実習直前の準備と心得について
- 第7回 教育実習前半の振り返りとまとめ
- 第8回 教育実習前半についてグループ討議
- 第9回 指導計画・事例研究について
- 第10回 教育実習の振り返り（日誌の整理）
- 第11回 教育実習の振り返り（学校、子どもたちへの礼状）
- 第12回 教育実習報告会に向けて（報告資料の作成）
- 第13回 教育実習報告会に向けて（印刷、製本）
- 第14回 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化
- 第15回 自己評価と今後の課題について

【授業時間外の学習】

学校支援ボランティアで学んだ内容をまとめておき、教育実習における各自の課題を見出しておくとともに、学習指導細案作りや教材研究に積極的に取り組む必要があります。

【成績の評価】

授業への参加態度(40%)、教材研究のあり方(30%)、実習のまとめ(30%)等から評価します。報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、今後の学修に生かす。なお、教育実習事前事後指導(小)は、小学校教育実習と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

適宜、資料を配布します。

【参考文献】

なし。

科目名： 教育実習 （幼稚園）
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

教育実習 は、教職を志す学生が幼稚園において、幼児教育の実際を観察し、また、体験することによって、幼稚園教育の意義を理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身に付けることを目指す、幼稚園教諭一種免許取得のための必修科目です。

大学の授業で習得した知識や技能を基礎として、大学の授業では得られない幼稚園の教員としての素養を身に付けるため、幼稚園での実習を通して集中的に学習するものであります。素養とは、幼児・教職員・保護者との接し方や、幼稚園の教育方針・保育計画、指導技術の習得、幼稚園の行事や教職員の職務などを理解するとともに、子どもの特性や発達に対する理解を深め、幼稚園の教員としての使命を認識することです。また、経験の豊富な担当教員の指導を通して、実践的指導力の初歩を習得することができる非常に実りの多い総合的実習です。

【到達目標】

- (1) 幼稚園教諭の業務と職業倫理について具体的に学び、保育者としての使命感や倫理観を培う。
- (2) 常に自己を省察し、課題や新たな目標の明確化を通して、豊かな人間性をはぐくむ。
- (3) 保育者の職務や役割等教職の専門性について理解し、必要な知識を習得する。
- (4) 子どもの実態を把握し、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して指導力や保育の構築力を養う。

【授業計画】

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 第1週 | 1 実習園の概要を知る |
| | 2 実習園の1日の流れを把握する |
| | 3 幼児の遊びの状況を理解し、参加する |
| | 4 発達の特性により、遊び、生活、課題への取組の違いを知る |
| | 5 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ |
| | 6 実習記録の取り方、反省、評価について学ぶ |
| 第2週 | 7 安全に対する配慮、清掃、環境整備の仕方を知る |
| | 1 年間指導計画の中での現在の保育を理解する |
| | 2 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る |
| | 3 いろいろな子どもとの関係を深める |
| | 4 保育における指導と援助のあり方を探る |
| | 5 部分実習をする |
| | 6 保育実践の反省、評価を受ける |
| | 7 園行事に参加し、行事のあり方について考える |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。

【授業時間外の学習】

毎日、実習日誌を記録することによって、一日を振り返り、課題を見出して、明日の実習に生かしましょう。様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行ってください。

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）により評価をします。なお、教育実習 は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 教育実習（幼稚園）
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

教育実習は、教育現場における教育の実際を観察し、また、体験し、さらに経験や体験を積むことにより、幼稚園教育の意義について認識と理解を深め、教師としてのあり方を学ぶ幼稚園教諭一種免許取得のための必修科目です。教育実習の学習をふまえたうえで、幼児教育の特質を知り、幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うことをねらいとしています。

実習園では、指導教員の指導を受けながら、見学・観察・部分保育・全日保育・研究保育などの実習を行います。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、実習生の主体的、意欲的な学習への取組が不可欠になります。専門的な事前研究に加え、様々な分野の経験を積み、豊かな感性を磨くことが人間力を培うことにもつながります。教育実践への限らない意欲や情熱を抱きつつ、体調等自己管理に留意しながら実習に臨むことを望みます。

【到達目標】

- (1) 幼稚園教諭の業務と職業倫理について具体的に学び、保育者としての使命感や倫理観を培う。
- (2) 常に自己を省察し、課題や新たな目標の明確化を通して、豊かな人間性をはぐくむ。
- (3) 保育者の職務や役割等教職の専門性について理解し、必要な知識を習得する。
- (4) 子どもの実態を把握し、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して指導力や保育の構築力を養う。

【授業計画】

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 第1週 | 1 子どもの成長発達を理解する |
| | 2 集団生活における子どもの学びを知る |
| | 3 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む） |
| | 4 特別な配慮を必要とする子どもへのかかわり方を知る |
| | 5 季節の行事に関する保育を知る |
| | 6 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する） |
| | 7 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する |
| 第2週 | 8 幼稚園と家庭との連携についてその意義と方法を知る |
| | 1 保育室の環境整備・経営について知り、実践する |
| | 2 幼稚園教諭についての職務内容を理解する |
| | 3 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する |
| | 4 幼稚園の特色ある保育についての理解を深める |
| | 5 子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等） |
| | 6 全日保育の計画、実践を行う |
| | 7 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する |
| | 8 実習反省会・お別れ会 |
| | 9 これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。

【授業時間外の学習】

毎日、実習日誌を記録することによって、一日を振り返り、課題を見出して、明日の実習に生かしましょう。様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行ってください。

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）により評価をします。なお、教育実習は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 教育実習（幼稚園）
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

教育実習は、教育実習を受講した学生が対象であり、学生が自己開拓した幼稚園で行う教育実習です。教育実習の実習経験を生かして、さらに子どもの特性や発達への理解を深め、教職の専門性の理論を学ぶとともに、実践力を身に付けていくことをねらいとしています。

実習園では、指導教員の指導を受けながら、指導技術の向上を図るとともに、広い視野に立った幼稚園教育のあり方について学習し、将来、幼稚園の教員としての使命を認識し、保育の楽しさと責務を体感します。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、実習生の主体的、意欲的な学習への取組が不可欠になります。専門的な事前研究に加え、様々な分野の経験を積み、豊かな感性や心を磨くことが人間力を培うことにもつながります。教育実践の創造への限りない意欲や情熱を抱きつつ、体調等自己管理に留意しながら実習に臨むことを望みます。

【到達目標】

次のことを目標に掲げ学習を進めていきます。

幼稚園教諭の業務と職業倫理について具体的に学び、保育者としての使命感や倫理観を培う。常に自己を省察し、課題や新たな目標の明確化を通して、豊かな人間性をはぐくむ。

保育者の職務や役割等教職の専門性について理解し、必要な知識を習得する。

子どもの実態を把握し、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して、指導力や保育の構築力を養う。

【授業計画】

事前事後指導

- | | | | |
|---|-----------|---|-------------------|
| 1 | オリエンテーション | 4 | 保育の展開と教師の援助 |
| 2 | 保育の記録 | 5 | 指導計画の評価・改善 |
| 3 | 指導計画の作成 | 6 | 実習後の振り返りと自己課題の明確化 |

第1週 1 幼稚園の教育方針や特色ある保育について理解する

2 幼稚園教諭の職務内容について理解する

3 教育課程と指導計画について理解する

4 全日保育の計画を立案し、実践する

5 研究保育の計画を立案し、実践する

6 学級経営について理解する

7 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する

8 その他教員として必要な事項について理解する

第2週 1 保育室の環境整備について理解する

2 全日保育、研究保育の計画を立案し、実践する

3 地域との連携、幼稚園の社会的意義を理解する

4 小学校との連携について理解する

5 子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等）

6 人権・同和教育、特別支援教育について理解する

7 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する

8 実習反省会・お別れ会

9 これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。

【授業時間外の学習】

実習事前学習： 自分自身の課題を見出し、指導案立案及び実技演習や教材作成に取り組みましょう。

実習期間中： 毎日、実習日誌を記録することによって、一日を振り返り、課題を見出して、明日の実習に生かしましょう。

実習事後学習： 実習の反省・考察をまとめ、自己課題を抽出しましょう。

【成績の評価】

実習園からの評価に基づき、実習日誌や提出物、出席状況等から総合的に評価をします。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： 小学校教育実習

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji), 植田 宗士(UETA Muneo), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

小学校教育実習は、小学校教諭免許状を取得する学生を対象とした教育実習です。一定の期間、小学校において、経験の豊富な担当教員の指導を受けながら、小学校の教育活動の実際について体験し、学修するものです。この体験を通して、教科指導をはじめ、道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動、生徒指導、教育相談、学校事務など小学校教育全般について、実践を通して理解を深めていきます。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、主体的、意欲的な学修活動が不可欠となります。実習を通して、教師として必要なあらゆる分野の経験・体験を積むことが期待されます。

【到達目標】

教科等の指導、生徒指導、学級経営など教育活動全般にわたっての実習を通して、「教師として有すべき教育観、教師としての心がまえ」、「教師として習得すべき指導方法」等を実践的に学びます。また、学習指導における基本的な指導技術・技能の習得をめざします。

【授業計画】

< 第1週 > 実習内容は、実習校の経営・指導方針等により変更することがあります。

- 1 学校の教育方針や特色ある教育について
- 2 指導講話 実習全般について
- 3 指導講話 学習指導について
- 4 指導講話 生徒指導について
- 5 指導講話 保健指導について
- 6 学級の実態と学級経営について
- 7 学級事務についての考え方と実習について
- 8 朝の会、帰りの会の運営

< 第2週 >

- 1 児童の人間関係の把握、給食・清掃指導
- 2 教室環境の整備、学級事務の処理
- 3 日常活動、特別活動への参加、指導
- 4 授業参観と授業記録の取り方について
- 5 授業参観（学習過程、板書、発問等）
- 6 授業参観（児童の反応、つぶやき、表情等）
- 7 指導講話 褒め方、叱り方

< 第3週 >

- 1 示範授業の参観と研究
- 2 学習指導案の立案、考え方について
- 3 教材研究の仕方と学習指導案の書き方について
- 4 授業研究 各教科
- 5 授業研究 道徳、告別活動
- 6 授業研究 総合的な学習の時間、外国語活動
- 7 授業研究 ()の各教科に関する指導細案の作成
- 8 授業研究 () ()の教科外に関する指導細案の作成

< 第4週 >

- 1 問題のある児童の実態把握
- 2 研究授業 各教科に関する指導細案の検討
- 3 研究授業 教科外に関する指導細案の検討
- 4 研究授業 ()の授業実践と指導、評価
- 5 研究授業 ()の授業実践と指導、評価
- 6 教育実習のまとめと反省
- 7 実習日誌の記録の整理

【授業時間外の学習】

毎日、実習した内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とします。気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かします。

【成績の評価】

教育実習校からの評価(50%)に基づき、研究授業(30%)実習日誌や提出物(20%)等により評価します。教育実習事前事後指導の報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

なし

科目名： 教職実践演習（小）

担当教員： 高橋 英弉(TAKAHASHI Eiji), 植田 宗士(UETA Muneo), 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 藤井 明日香(FUJII Asuka), 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の学修を通して、身につけた資質・能力が教員として最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものです。1年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレイング、演習などを通して「理論」と「実践力」の定着を図ります。

なお、後期開講ですが、必要に応じて、前期にも時間を調整して実施します。

【到達目標】

- (1) 小学校の教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付ける。
- (2) 小学校の教員としての社会性や対人関係能力を身に付ける。
- (3) 児童についての理解や学級経営等に関する知識を身に付け、基礎的経験をする。
- (4) 小学校の教育課程や指導についての知識や技能、指導力等を形成する。

【授業計画】

以下のように各回2コマ実施します。

- | | | |
|------|---|--------------------|
| 第1回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(1)
教員に求められるマナーや社会性 | 模擬面接 |
| 第2回 | 小学校の教育内容の指導力に関する事項(1)
小学校現場の課題把握 | 小学校教員との交流 |
| 第3回 | 教職を取り巻く現代的課題
到達目標(1)、(2)について討議 | 到達目標(3)、(4)について討議 |
| 第4回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1)
講話 | 教育実習を振り返って |
| 第5回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2)
講話 | 現職教員と学校現場の課題について討議 |
| 第6回 | 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項(3)
教育行政関係職員との討議 | 小学校管理職との討議 |
| 第7回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(2)
保護者への対応(講話) | ロールプレイング |
| 第8回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(3)
保護者の思い(講話) | 保護者との懇談会 |
| 第9回 | 児童理解や学級経営等に関する事項(1)
特別な支援を必要とする児童の理解(講話) | 同(演習) |
| 第10回 | 児童理解や学級経営等に関する事項(2) (学校訪問)
学校、学級経営について(講話) | 新規採用教員等との懇談会 |
| 第11回 | 児童理解や学級経営等に関する事項(3)
学級経営計画について(講話) | 学級経営計画の作成、発表、討議 |
| 第12回 | 教育内容の指導力に関する事項(2)
教育課程の編成原理等について(講話) | 学校の年間指導計画の作成 |
| 第13回 | 教育内容の指導力に関する事項(3)
教科内容等の指導力について検討 | 模擬授業 |
| 第14回 | 教育内容の指導力に関する事項(4)
新しい教育方法や技術の検討 | 模擬授業 |
| 第15回 | 教員に求められる資質・能力のまとめ
求められる教師像のまとめ発表 | 総括 |

【授業時間外の学習】

各回について、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出します。

【成績の評価】

討議や発表における参加度(60%)や毎回のまとめ(20%)、ワークシート(20%)等の提出物等によって評価します。まとめやワークシートは、その都度添削して事業時に返却する。

【使用テキスト】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル社、2008年)190円

文部科学省『小学校習指導要領解説 総則編』(東洋館出版社、2008年)106円

【参考文献】

適宜、資料を配付します。

科目名： 外国語活動（英語）指導法研究

担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

新指導要領が発表され、小学校では2020年度より、3、4年生には外国語活動を週1コマ導入し、また5、6年生には外国語科として教科化することが決まった。これにより、将来幼稚園や保育園においても英語に触れさせる機会は今以上に増してくることは十分予想されよう。この授業では、日本人の小学校児童や幼稚園児が英語と楽しくかかわっていくための理論と実践の両面に焦点をあて、子どもに対する英語教育の内容と指導法を考えてゆく。

【到達目標】

将来、小学校や幼稚園（保育所）で英語を教える際、日本の子どもたちにとって、コミュニケーションに必要な基本的な英語を、楽しく教えることができるようになることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校における英語活動の現状と課題
- 第3回 児童英語教育の目的と意義
- 第4回 子どもの言語発達
- 第5回 母国語習得と外国語学習
- 第6回 言語心理学と児童英語
- 第7回 児童英語教育の教材作成
- 第8回 児童英語教育の指導技術
- 第9回 授業の組み立て方
- 第10回 指導案の書き方
- 第11回 年間指導計画の立案
- 第12回 評価方法
- 第13回 教員養成
- 第14回 デモンストレーション授業
- 第15回 デモンストレーション授業についての討議

【授業時間外の学習】

授業の終わりに次回の授業の範囲を指示するので、テキストの該当ページを予習しておくこと。さらに基本的なクラスルームイングリッシュを、毎時間暗記してくることも求める。また、指名されている人は、小学生相手に教える、10分程度の、英語の授業の準備をしておくこと。

【成績の評価】

レポート20%、デモ授業30%、試験50%として評価する。

【使用テキスト】

岡秀夫・金森強『小学校外国語活動の進め方』（成美堂）

【参考文献】

『小学校学習指導要領』

科目名： 介護体験

担当教員： 藤井 明日香(FUJII Asuka)

【授業の紹介】

介護体験は、介護等体験特例法によって教員免許状取得にあたり義務付けられたものです。高齢者の方や障害のある方などの社会福祉施設等で介護等の体験をすることが求められます。介護等体験は、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の合計7日間行います。本科目では、介護等体験実習及び実習の事前学習、事後学習を行います。事前学習では、介護等体験の心得、特別支援学校や社会福祉施設の概要の理解、実習中の利用者の方と接し方についても学習します。介護等体験実習後は実習記録を整理し、レポートにまとめて報告します。この科目は、小学校教員免許状取得希望者のみ受講できます。また受講には、実習費など約1万円が必要になります。

【到達目標】

特別なニーズのある子どもや利用者の方と交流を持ち、介護等を体験することにより、特別支援学校や社会福祉施設の役割を学び、人との関わり、援助する上で大切にすべき姿勢や視点を体験的に学習する。これらの姿勢や視点を体験することにより、教育を担うものに求められる受容的な態度及び豊かな人間性を育むことを目標とします。

【授業計画】

事前学習(10回程度予定)

- ・介護等体験に関するガイダンス
- ・介護等体験の心得について学ぶ
- ・特別支援学校の概要の理解や通っている児童・生徒との接し方について学ぶ
- ・社会福祉施設の概要と利用者との接し方について学ぶ

介護等体験

- ・特別支援学校(2日間)、社会福祉施設(5日間)

事後学習(2回程度予定)

- ・体験レポートの提出、報告会

【授業時間外の学習】

実習の直前には、事前学習で学んだことを再度確認することが大切です。また実習後には、体験レポート作成や実習先への礼状書きなどを自宅学習で行います。

【成績の評価】

事前・事後学習の出席状況、受講態度、体験レポート、報告会での発表などを総合して成績を評価します。

【使用テキスト】

必要に応じて、資料を配布します。

【参考文献】

必要に応じて、講義内で紹介します。

科目名： 学校支援ボランティア

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji), 植田 宗士(UETA Muneo), 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

3年生で教育実習を実施する前段階として、教育現場で学校教育への理解を深め、児童への接し方、指導・支援のあり方を体験し、学ぶことを目的とします。

香川県内の小中学校や教育支援センターの要請を受けて行われており、具体的には、要請のあった学校に出向き、児童と共に活動したり、教師の仕事を手伝ったりして、学校教育の補助を行います。そうした中で、得られる様々な実感や体感を通して、大学の講義への理解を深め、より確かな子ども観、自分がめざす教師像、教育観を育てて欲しいと考えています。

【到達目標】

- (1)子どもの特性や発達への理解を深め、教育活動に必要な知識技能の習得をめざします。
- (2)学校現場での実践を通して、よりよく問題を解決する教員としての資質や能力を身につけることをめざします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 オリエンテーション
- 第3回 学校支援ボランティア配置についての説明会
- 第4回 学校支援ボランティア配置についての連絡調整
- 第5回 学校支援ボランティアの意義と目的
- 第6回 学校支援ボランティアの形態・内容・方法
- 第7回 支援者としての心得・態度
- 第8回 支援者としての留意点
- 第9回 担当学校の概要
- 第10回 担当学校の教育計画等について
- 第11回 指導・支援記録について
- 第12回 指導・支援記録のとり方の実際
- 第13回 学校生活のリズムについて
- 第14回 学校生活のリズムと週時程
- 第15回 子どもの実態把握について
- 第16回 子どもの実態把握の仕方
- 第17回～第28回 学校の要請に応じたボランティア活動
- 第29回 まとめ・学んだこと(報告会前半)
- 第30回 まとめ・学んだこと(報告会後半)

【授業時間外の学習】

指導・支援結果について、提示された視点から考察を行います。その際、活動の羅列だけではなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考えます。

【成績の評価】

活動開始前のオリエンテーションや反省会での参加態度と成果及び指導・支援記録40%、ボランティアへの参加状況及び参加態度等60%で評価します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

随時資料を配布します。

科目名： 学校支援ボランティア

担当教員： 高橋 英弐(TAKAHASHI Eiji), 植田 宗士(UETA Muneo), 蓮本 和博(HASUMOTO Kazuhiro), 福田 安伸(FUKUDA Yasunobu)

【授業の紹介】

前期に続いて、担当校の要請に沿った支援に努めるとともに、自ら課題を見つけ主体的に取り組んでいくことをめざします。そこから、教科等の学習場面や生活場面における教師の援助の在り方について学びます。また、児童の発達についても理解を深め、児童の実態把握の方法や技術を学びます。

【到達目標】

- (1)子どもの特性や発達への理解を深め、教育活動に必要な知識技能の習得をめざします。
- (2)学校現場での実践を通して、よりよく問題を解決する教員としての資質や能力を身につけられるようにするとともに、教育実習に向けて自主的に学ぼうとする態度を養います。

【授業計画】

- 第1回 前期のボランティア活動の振り返り（具体策の作成）
- 第2回 前期のボランティア活動の振り返り（具体策の検討）
- 第3回 学校等との打ち合わせ（学校の諸計画）
- 第4回 学校等との打ち合わせ（日程調整）
- 第5～12回 要請に応じたボランティア活動
- 第13回 管理職との面談（活動報告）
- 第14回 管理職との面談（指導助言）
- 第15～24回 課題解決をめざすボランティア活動
- 第25回 教科指導への参加とそのポイント
- 第26回 教科指導への参加と支援活動
- 第27回 生徒指導のポイント
- 第28回 生徒指導の実践例
- 第29回 まとめ・報告会（前半）
- 第30回 まとめ・報告会（後半）

【授業時間外の学習】

- ・ 毎時間のテーマを事前にチェックし、自分なりに目標達成のための工夫ポイントを用意して指導・支援活動に参加します。
- ・ 指導・支援結果について記録にのみ留まることなく、背景や意図を探り、分析、考察する習慣を身に付けます。
- ・ 日常的に子どもの言動に注意し、メモをとる習慣をつけ、児童理解に努めます。

【成績の評価】

活動への参加状況及び意欲と態度70%、指導・支援記録、活動後の報告会等への参加態度と成果30%で評価します。報告会における講評及び報告書の添削によってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

随時紹介または資料を配布します。